

# 大阪医科大学学報

第81号 平成21年8月  
(インターネット版)



蔓荔枝 (ツルレイシ)

## ◆目

学長就任の挨拶	2
就任挨拶	4
最終講義	6
名誉教授称号授与	9
看護学部設置に向けて	10
永年勤続表彰	13
受賞等について	15
研究助成金について	16
叙勲について	17
「大学教育充実のための戦略的大学連携支援事業」採択	18
「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラム採択	19
規程関係	20
平成20年度決算について	21
寄付金報告	26

## ◆次

中山国際医学医療交流センター	27
学位記授与	36
医学会春季学術講演会	37
市民公開講座	38
学内行事	39
看護専門学校関係	40
病院看護部・行事日程	41
主要会議報告	42
医療安全推進部関係	45
感染対策関係	46
保健管理室からのお知らせ	47
歴史資料館・俳句	48
健康科学クリニック	49

### 学長就任のご挨拶



学長就任に際して

～大阪医科大学の新生プログラム～

学長 竹中 洋

6月1日に学長に就任いたしました。マニフェストに掲げた「教授会を中心に情報公開と意思決定プロセスの透明度を上げ、共通目的を形成し一体感のある大学運営を行います」を実行して参りたいと考えています。

何よりも大事にしたいことは、夢のある事業を教職員全員参加で実行し、本学が社会の負託に答えていくことであります。そのためには現状並びに過去に本学で起った事象を整理しておく必要があります。例えば「高槻市の都市計画で大学キャンパスはどのように捉えられているのか」、「3大学共同学部構想の審議はどこで行われているのか」などです。このような問題は説明責任が不十分であったか、あるいは意思決定プロセスに教員や職員の現場の声が十分に反映されていなかったためと考えています。

しかし、これらの検証は、大阪医科大学の将来について具体的な事業案を提出して意見を集約していくことと同時進行で行われなければ、現実的な問題解決になりません。理念に掲げられている「よき医療人の育成」を実現するためには、到達目標の設定と必要な設備は何かを、今改めて真剣に考えなければなりません。

学部、大学院と病院について考えてみます。

医学部では、クリニカルクラークシップの充実を提案します。クリニカルクラークシップの教育目標や行動目標の見直しを行い、基本的には患者さまとの接触を通じ医師としてのプロフェッショナリズムを育成し、医療安全や医療法規の運用を経験し医師の社会的責任を学べる教育内容にして参ります。医師のキャリア形成プログラム作成は、認定医・専門医育成と大学院の在り方に留まらず、新しい教室や講座の在り方を規定することが予測されます。しかし、学部教育が本分であることを忘れることなく対峙するつもりです。チュートリアルシステムの導入や教育体制の変化で教員の教育負担が増加したとの実感があり、屋根瓦方式の徹底と新たなチューター層の導入も検討致します。教育機構と教育センター、研究機構と大学院など機能と組織が十分に熟れていないところがあり、検証が急務です。医学教育の根底は、科学する豊かな精神です。総合教育や基礎系科目の充実を目指したプログラム策定に踏み込む時期がきています。

看護学部創設は組織の大変換を意味しています。看護の教学体制確立には、教職員の共通目的形成が不可欠です。看護学部調整委員会を教授会内に設置しました。徹底した双方向性の情報開示に努めます。

大学院の充実は、高度な知識と技術を持つ医師育成には不可欠です。大学院専任教授の必要

性は認められていますが、大学院教員組織については全く手つかずの状態です。人事に伴う事業計画や予算の策定が急務です。また、研究施設に十分な配慮がなされておりません。例えば、最新の中央動物実験施設を実現するためには、事業計画に沿った予算を求める必要があります。また事業費を生み出すためには、固定経費の削減や職員の適正配置、委託業務の抜本的見直しを、自らの問題として取り組まなければなりません。財務の問題として対応するだけでなく、学長の業務と考え取り組む覚悟でいます。

病院では、耐震基準を満たしていない老朽施設対策やICUやCCUの充実・新設、手術室の拡充、中央放射線施設の再編など、診療形態の効率化には8号館の建設が急務です。また、病院における診療実態の把握と、病院機能の進化なくして私立医科大学の財政は成立しないと考えています。病院長と至急協議に入り、理事会に働きかけたいと考えています。

また、ここ10年間の事務部門の責任者不在は、中長期計画の提案や継承に支障を来たしています。オーナー理事長や創業家不在の本学において、学長や病院長、理事長も一定期間の業務執行者に過ぎません。計画された事業を実行し、検証し、成果を導くためには正しい事務組織の構築と内部監査の充実が求められています。組織の在り方を理事会に提案して参ります。

価値観が多様化した現代、「良き医療人」とは何かが問われています。医師不足が叫ばれ今後10年間毎年8855名の医学部入学者が計画されています。「評価に耐える医療人とは？」を、学生諸君も含む全員の活発な論議が行われる環境を整備し、追求して参ります。

ご協力をお願い申し上げます。

### 略 歴

昭和49年3月	大阪医科大学卒業	平成10年4月	大阪医科大学附属病院薬剤部長
昭和49年6月	京都府立医科大学研修医	平成12年4月	大阪医科大学治験センター長
昭和55年4月	京都府立医科大学耳鼻咽喉科助手	平成12年4月	大阪医科大学附属病院副院長
昭和56年7月	愛生会山科病院耳鼻咽喉科部長	平成14年11月	大阪医科大学物流センター長
昭和58年2月	京都府立医科大学耳鼻咽喉科助手	平成16年4月	大阪医科大学附属病院病院長
昭和58年4月	国立福井医科大学耳鼻咽喉科講師	平成21年6月	大阪医科大学学長
昭和60年12月	京都府立医科大学耳鼻咽喉科講師		
平成元年4月	京都府立医科大学耳鼻咽喉科助教授	日本耳鼻咽喉科学会副理事長・理事・評議員	
平成4年7月	米国UCLA内科臨床免疫学教室へ留学	日本アレルギー学会常任理事・代議員	
平成5年3月	京都府立医科大学耳鼻咽喉科助教授 (復職)	日本鼻科学会理事長	
平成8年4月	大阪医科大学耳鼻咽喉科学教室教授	厚生労働省 医療技術参与	



### 教育機構長就任のご挨拶



病理学教室 教授 芝山 雄老

平成21年6月より、大槻勝紀教授の後任として教育機構長に就任いたしました。

教育機構は教育センター（センター長：鈴木廣一教授）および学生生活支援センター（センター長：千原精志郎教授）とからなっています。教育センターは進級や卒業判定に関する教育評価、入学試験、国家試験などに関する教育の実務、医学教育に関する企画立案などを行い、学生生活支援センターは教育環境の整備、奨学金貸与および給付学生の決定、心のケアや就学の悩みを持つ学生と保護者への指導などを行っています。教育機構の専任教員である出口寛文専門教授、島本史夫准教授と共にこの二つのセンターがそれぞれの実務を効率よく遂行できるように、またより良い教育環境の構築のために尽力して行きたいと考えております。

教職員各位のご理解、ご協力、ご指導ならびにご支援をお願いいたします。

### 研究機構長就任のご挨拶



生化学教室 教授 林 秀行

6月16日付けで研究機構長に就任いたしました。

ご存知の通り、研究機構は平成16年4月に佐野教授の主導により、それまでにあった学内の研究諸施設を統合する形で設置されました。同時に研究機構においてプロジェクト共同研究が始まり、学内外の共同研究を推進するための重要な基盤が提供されました。谷川教授はこれをさらに発展され、本学から外に発信する研究の育成に取り組み、大きな成果を挙げられました。

また一方で、研究機構の設備は学内の多くの研究者の日常の研究の場として必須の役割を担っております。これは、研究機構の前身の一つでありその中核となった旧機器共同利用センターが、単独教室では導入・維持管理が困難な機器を多教室共同で運用する方式によって、学内の研究を支援してきたことが受け継がれているためです。このように研究機構は本学の研究において多面的な役割を果たしていると言えます。

以上の歩みを踏まえて今後の研究機構の進むべき道を考えると、本学の研究の拠点である大学院との関連が重要な課題となって来ます。すでに現在、研究機構は大学院共同利用実験施設セミナーの一部を担当し、また研究機構シンポジウムは大学院の統合講義の一部となっています。大学院の在り方が米田大学院委員長を中心として考えられて行く中で、それと連動して研究機構の在り方も考えられていかなければなりません。

皆様のご理解とご支援をいただきながら、研究機構のハード・ソフト両面の整備を推し進め、本学の研究水準の更なる向上に寄与していきたいと存じます。なにとぞよろしくお願い申し上げます。

## 教育センター長就任のご挨拶



法医学教室 教授 鈴木 廣一

医学教育センターは、本学の教育を総合的な観点にたって推進していく組織として位置づけられ、学生生活支援センターとともに本学の教育機構の両輪となって、学生の教育と生活を支える役目を担っています。

医療の高度化や社会環境の変化に応じて、本学では積極的に医学教育の改革に取り組んできました。その一環として総合試験、PBL、臨床技能実習（Basic&Advanced）等を早くから導入してきました。教育センターが現在取り組んでいる課題と今後の課題として前センター長の米田博教授から

引き継いだ事項は、あわせて約50件にのぼります。見直しや今後の課題について各学年ごとに重点課題を決めて、修繕、解決していきます。

本学には全国から優秀な学生が集まってきている上に、教育に長けた教員が多数現場にいます。その優秀な学生によりよい医学教育の場を提供できるよう、関連する組織と連携しながら努力していきたいと考えています。

## 大学院委員長就任のご挨拶



神経精神医学教室 教授 米田 博

本年6月より前委員長南教授を引き継ぎ、大学院委員会委員長に就任いたしました。大学院は、平成17年中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」と「新時代の大学院教育 一国際的に魅力ある大学院の構築に向けて」を基本とした施策が進められています。この中では、21世紀を知識基盤社会の時代と考え、国際的に活躍する人材育成のために大学院は国際的に信頼される「魅力ある教育」の展開が求められています。本学では、前委員長南教授を中心として、今年度より系の見直しすなわち1専攻、医学専攻のなかに5コースを設置し、入学者は、一般入学、社会人入学、外国人留学生入学枠を定めて入学資格を弾力化し、広く入学者を募集するようになりました。このような改正によって入学者数の減少に歯止めがかかり、今年度は多くの新たな大学院生を迎えることができました。また学位審査、FD等、多くの懸案事項に関する規程が整備され、学位審査の透明化、教員の資質向上に向けた取り組みが進められています。さらにカリキュラム内容の改正も続けられています。このように本学大学院はここ数年でその役割や枠組みが明確化されてきました。今後もこのような取り組みをより強固に継続かつ発展させたいと考えています。

大学院の今後の課題として、大学院教育の実質化をさらに推進することがあげられます。すなわち各コースの教育プログラムを充実・現実化させ、幅広い視野を持つ人材育成を目指さなければなりません。この中には医学系大学院として、医学部入学から十数年にわたるキャリアプランの中での大学院の位置づけ、専門医制度との関係も重要となり、これに対応した教育内容を組織的に考える必要があります。博士の学位取得へのサポートも重要です。また大学の中での大学院教員組織のあり方とさらなる教育・研究指導能力の開発、研究機構を含めた学内各部署、さらに関連する地域や産業界との連携、国際的に信頼される人材養成のための国際化など課題は山積しています。皆様方のご協力をいただきながら、大阪医科大学らしい大学院にしてゆきたいと思えます。何とぞよろしくご協力申し上げます。

大学院の今後の課題として、大学院教育の実質化をさらに推進することがあげられます。すなわち各コースの教育プログラムを充実・現実化させ、幅広い視野を持つ人材育成を目指さなければなりません。この中には医学系大学院として、医学部入学から十数年にわたるキャリアプランの中での大学院の位置づけ、専門医制度との関係も重要となり、これに対応した教育内容を組織的に考える必要があります。博士の学位取得へのサポートも重要です。また大学の中での大学院教員組織のあり方とさらなる教育・研究指導能力の開発、研究機構を含めた学内各部署、さらに関連する地域や産業界との連携、国際的に信頼される人材養成のための国際化など課題は山積しています。皆様方のご協力をいただきながら、大阪医科大学らしい大学院にしてゆきたいと思えます。何とぞよろしくご協力申し上げます。

本年5月末をもって任期を迎えられました植木 實前学長の最終講義が以下のとおり行われました。

なお、6月1日付で名誉教授の称号を授与されました。

日 時：平成21年6月24日（水）16:00～

場 所：臨床第1講堂

演 題：『子宮がんの話』



私は大阪医科大学を卒業して以来46年が経ち、そのほとんどを本学産婦人科で仕事して参りました。昭和34年の入学から学生時代を含めるとちょうど51年、半世紀余が経ち、自分でも驚いています。学生時代に現在の1号館が建ち、医師となってから2号館～6号館、そして学生実習棟、総合研究棟、本館・図書館棟、看護専門学校、病院7号館、新講義実習棟の建設と、現在の大学の姿まで、移り変わりを目の当たりにしてきました。雨が降ると病院前のドブ水が溢れていた入学当時を思い起こすと想像も付かない変貌ぶりで、立派な病院・学舎が立ち並び、また、内容も充実して本邦でもトップクラスの医科大学に発展したとの思いで一杯であります。これも諸先輩のお陰と感謝しております。

今日は多くのご出席頂いている若い先生方、看護師の皆さん、そして学生諸君の参考になるような子宮がんの話話を話題に致しました。私のライフワークの1つとして、婦人科がんの早期診断・早期治療を心がけ、集団検診、定期検診にも力を入れ、検診や予防によって「子宮頸癌発生を0に、死亡率を0に」することをモットーにして参りました。最近、政府は「子宮頸癌と乳癌の検診料を無料にする」と打ち出しており、私にとってもうれしいニュースであります。

今回は私の臨床研究の柱の中から、上記に関わる2つのトピックス、「頸癌発生メカニズム」と「初期癌の子宮温存治療 - レーザー法の確立 -」について述べたいと思います。

### I. 頸癌発生メカニズムについて

頸癌発生の解明については、頸癌の早期診断（細胞診、コルポスコピー、組織診）の進歩を抜きにして語れない。ここで、頸癌は種々な程度の前癌（異形成）から上皮内癌を経て段階的に発生すること、そして発癌母細胞は頸管の円柱上皮下予備細胞及び化生上皮細胞であろうことも判明した。また、疫学的調査で、この発生には性交が大きく関与すること、生活環境、人種、年齢、ホルモン環境なども関係することが明らかとなった。また、発癌の直接の因子としてはウイルス、化学物質、物理学的刺激や慢性炎症が考えられている。最近のウイルス学や遺伝子の進歩により、ウイルスはHPVに特定され、中でも16、18型を中心いくつかの型が関与することが判明した（図1）。

現在までに判明している頸癌発生メカニズムをまとめると、大きくは「癌は遺伝子の異常であり、多段階の変化を経て発生する」とされる。それには、

- ① 性的接触の際にhigh risk HPV感染が生じる。
- ② このHPV感染は、持続感染（感染維持、または繰り返し感染）の状態が重要である。（これには免疫力低下も関与）
- ③ 持続感染によって組み込まれたHPV E6とE7の働きによる細胞の不老化が生じるが、これには同時に癌遺伝子の活性化や癌抑制遺伝子の不活化が関与する。
- ④ 癌の浸潤には宿主の免疫力に打ち勝つ必要がある。

上述のHPV感染から上皮内異常、そして浸潤癌に至るには多くのプロモーターが必要であるが、これを再整理すると、

- ① 性交、初交年齢、不特定多数の性交
- ② HPVの持続感染
- ③ 他のHSV、クラミジア、淋菌などの感染合併の存在
- ④ 頸部組織の年齢的变化、特にびらんの治癒機転にみられる種々の化生細胞の存在
- ⑤ 各上皮内異常における年数（数年～十数年）が必要で、この間に宿主に何らかの免疫力低下の時期が存在することも考えられる。

以上のように、複雑で長い期間を経て癌が成立するとされる。

現在、頸癌発生の防止にはHPV（VLP）ワクチンによる感染予防が世界的に検討されているが、得られている成果は断片的であり、さらなる上質のワクチンの開発が求められよう。

## II. 初期癌の子宮温存治療 - レーザー法の確立 -

頸部癌は、上述のような過程をもって若年婦人に多く長期間かけて発生する。従って、できるだけ子宮（妊孕性）を温存する治療が求められる。そのために我々が開発したレーザー治療法は、病巣のある頸部をその拡がりに合わせてレーザーメスで円錐形に切除し、さらに創面に蒸散を加え、レーザーの高温と光による殺細胞効果によって遺残病巣を消失せしめることが期待される手法である。

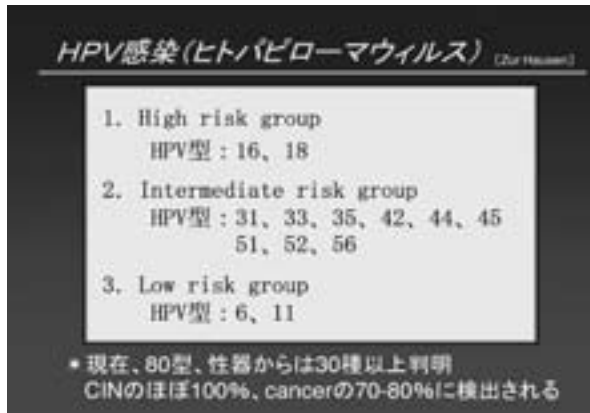
研究対象は1983年から2004年までの22年間にレーザー円錐切除兼蒸散法を行った扁平上皮系異常の2,647例で、内訳はCIN1（軽度異形成）：82例、CIN2（中等度異形成）：338例、CIN3：1,883例（高度異形成：677例、上皮内癌CIS：1,206例）、1a1：290例、1a2：34例、1b1：20例である。（腺系初期病変例は本講演では除外した）



術前診断は細胞診3～5回、コルポスコピー1～2回（UC例にはサービコスコピー施行）と狙い組織診1～2回を行った。レーザー円錐切除は主にNd-YAGレーザー接触蒸散法（切開15w、蒸散20w）で行った。切除標本の病理学的検索は12～16分割H.E.標本にて検鏡した。術後管理は6ヶ月までは1～2ヶ月毎、6ヶ月～3年は3～4ヶ月毎、3～5年は6ヶ月毎、5年以上は1年毎に細胞診で行った。

レーザー円錐切除法には3型があり、それぞれ病変の程度、拡がり、頸管内病巣の位置により、切除範囲や蒸散の異なる治療を行った。手術時間は5～25分（平均15.4分）、出血量は5ml以下88.5%、20ml以上11.5%であった。術後は週1回洗浄消毒し、ほぼ6週間で治癒した。

治療成績に関しては、術前診断の詳細な組織診による正診率は79.9%と高かった。ここで注意すべきは、CIN2の539例の中に17例、高度異形成の803例の中に48例、上皮内癌の951例の中に91例の微小浸潤癌が検出され、加えてCIN2は上皮内癌も多く検出された。この事実から、一般にはCIN2はfollowされているが、当科ではCIN2は浸潤癌の潜在の危険性があることから積極的に治療し、同時に正確な診断がなされるべきと考えられた。



(図1)



術前診断精度から治癒率と不完全切除率をみると、生検診が細胞診、コルポスコープと同等か上回る場合に治癒率は高く、不完全切除率は低かった。また、逆の場合は治癒率が低くなり、不完全切除は高くなった。

治癒率（1回施行のみ）では、CIN1：96.3%、CIN2：98.8%、CIN3のうち高度異形成99.4%、上皮内癌99.6%、初期浸潤癌のうち3mmまでは96.4%、3.1～4mm群では100%、4.1～5mm群では66.6%、5.1mm以上の群では26.7%であった。即ち、浸潤癌では4mmを境にして4.0mmまでの群

（96.5%）と4.1mm以上の群（36.4%）の間に治癒率に大きな差があり、4.0mmまでの初期浸潤癌が本法の治療限界と思われた。さらに、レーザー法の特徴を知るために不完全切除例における治癒率を検討すると、上皮内癌は91.9%、4mmまでの群で81.7%、4.1mm以上の群で42.1%と、これも4mmを境にして大きな差が生じており、さらに上皮内癌群と4mmまでの浸潤癌では遺残病巣の高い消滅が窺え、本レーザー法はメスによる切除と異なった特色を持つと考えられた。

一方、初期浸潤癌における過去の開腹手術例を調べ、文献を検索すると、リンパ節転移率は本学分を含めた3,754例の報告例の内、骨盤リンパ節転移は11例（0.29%）、4mmまでの浸潤癌例では425例の内、転移例は1例（0.24%）で、両者とも同様の比率で低い数値を示した。これを1a2（5mm浸潤まで）の例でみると、602例の内20例（3.32%）に増加し、子宮温存治療は上述の限界（浸潤4mmまで）を裏付ける結果となった。

このような成績を得ながら、本学では子宮温存の確立を目指して1985年から積極的にレーザー法を行った。その結果、毎年、上皮内癌例の約80%（全国平均40～50%/1999年）の症例に、1a期（5.0mm浸潤まで）癌では約70%（全国平均30%/1999年）の症例に施行してきた。この方法は入院や手術時間が短く、QOLも高く妊孕性も保てることから、患者様には大変好評である。

以上の結果から、本臨床研究は子宮頸部初期病変に対する子宮温存療法としてのレーザー接触法（治療的円錐切除法）を確立したといえる。その施行条件として、治療開始病変はCIN2であり、限界病変は初期癌浸潤4mm癌までが対象と考えられた。レーザー法の特徴は遺残病巣の高い治癒率にあり、特殊な例を除いて術後はまずfollowすべきと考えられた。それ以外に妊孕性及び分娩への影響の検討では、ほとんど認められず、また、妊娠中に行われた初期（浸潤）の10数例のレーザー治療例では流産もなく、生児を得ることができた。他に、術後のHPV感染や型判明の検討ではHPVの感染（特に16、18型の存在）は遺残や再発の可能性を示唆すると思われた。

以上で2つのトピックスの講演を終了致しますが、長時間のご清聴に感謝申し上げます。

最後に、本学が現在のように本邦トップクラスの医科大学に発展したのは、先輩そして現役の先生方のご努力のお陰であります。武田信玄の『人は城、人は石垣、





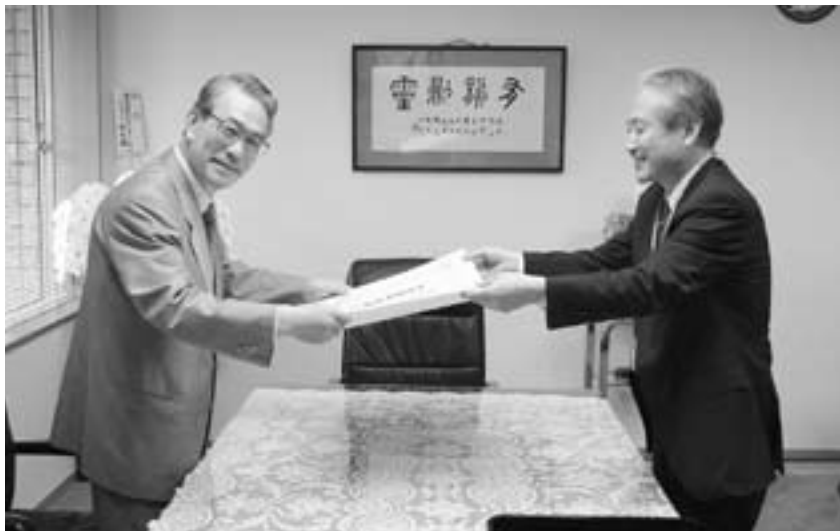
人は掘、情けは味方、仇は敵也』という言葉がありますが、城を大学に置き換えますとその言葉通りで、『人が大学を造る』のであります。若い先生方、看護師の皆さん、学生諸君に、今後の本学の将来を託し、皆さんのご成長とご活躍を切に願っております。

また、私をご指導下さいました故 小島 秋 教授、故 杉本 修 教授、そして私の人生の恩師でもあります平井 博 博士に心から厚く御礼を申し上げますとともに、今後の大阪医科大学の益々の発展を心から祈念致します。



### 名誉教授称号授与

平成21年7月9日（木）9:30から、学長室において、5月末をもって学長の任期満了を迎えられました植木 實先生に名誉教授の称号が授与されました。



### 入職のご挨拶

大阪医科大学看護学部設置準備室  
室長 林 優子



左・林優子室長 右・田中克子教授

平成21年4月1日付けで大阪医科大学看護学部設置準備室に着任いたしました。私は、大学卒業後、看護師及び看護管理者として臨床経験を経たあと、岡山大学と京都大学において学部及び大学院で看護学教育に携わってまいりました。

わが国の保健医療福祉は、医療の高度化や少子高齢化に伴う医療需要の増大・多様化などにより大きな変革期を迎えています。その変化に対応できる看護職者の育成のために看護基礎教育を大学教育に移行することを明確に打ち出した保助看法の一部改正が成立しました（平成21年7月9日）。このように看護基礎教育が大きく変貌を遂げようとする時期に、本学が看護師養成教育から看護学教育としての大学教育へと移行されたご決断を真摯に受け止め、看護学部設置に向けて努力する決意を改めて感じております。また、私は本学の自由な学風を大切にしながら、学生の感性と知性に刺激を与えるような教育を目指していきたくと思います。そして近い将来、看護学部が医学部同様に社会に誇れる学部として発展していくように、また、修士や博士の設置を目指して精進してまいりたいと思っています。本学教職員の皆様には今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

大阪医科大学看護学部設置準備室  
教授 田中 克子

平成21年4月1日付けで岐阜県立看護大学看護学部から転任いたしました。生まれ育った大阪の地で看護学部設置という大役の任を果たすべく、皆様のご理解、ご支援をいただきながら、疾風怒濤のような毎日を過ごしております。平成22年度看護学部設置にむけて、設置準備室は一致協力してその任務にかかわりますことはもちろんですが、法人、大阪医科大学、附属病院、附属専門学校をはじめ内外関係者におかれましては暖かいご指導とご支援を賜りますよう何卒よろしくお願いいたします。

### 看護学部設置に向けて

#### 1. 学士課程教育としての看護学教育について

看護を取り巻く環境は、急速な少子高齢化、医療の高度化・複雑化、医療の専門分化、国民の医療ニーズの多様化などによって大きな変貌を遂げ、安全な医療・看護が確保できる看護職者の資質向上が求められています。看護職者とは、看護師、保健師、助産師をいい、健康な人々、病気や障害をもった人々、死を迎えようとする人々など、人々の生老病死に深くかかわってケアを行う専門職業人です。

19世紀の中期、F・ナイチンゲール（1820-1910）から始まった近代看護は、その時代の要請や政策のなかでもまれながら、看護学の確立を目指して今日まで発展を続けてきました。米国の社会学者であったエスター・ブラウンは、「ブラウンレポート＝これからの看護（Nursing for the Future,1948年）」のなかで、専門職業を目指す看護師教育は大学教育で行うべきであると高度の教育機関の必要性を述べま

した。その結果、米国では大学及び大学院での看護学教育が着実に進められてきました。わが国では1952年に高知女子大学で初の大学教育が開始されましたが、大学教育は遅々として進みませんでした。1993年に、高度化・多様化する国民の保健医療サービスへの需要に対応するための「看護師等の人材確保の促進に関する法律」が制定されて以降、看護教育の大学化が急速に進み、2009年4月現在で看護系大学が181校、大学院が109校となっています。大学教育は専門職業教育（professional education）として、専門学校教育と短期大学教育での職業教育（occupational education）との違いを明らかにしています。つまり、大学教育は看護学の学問を追究し、かつ学問的に裏打ちされた看護実践を行うことのできる人材を育成することであることが明確化されています。

文部科学省は学士課程教育において、幅広い教養を身につけ、高い公共性・倫理性を保持しつつ、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、あるいは社会を改善していく資質を有する人材をさす「自立した21世紀型市民」を幅広く育成することが極めて重要であると述べています（中央教育審議会答申、2008年）。そして、大学教育では、「何を教えるか」ではなく「何ができるようになるか」に力点がおかれ、学問の基本的な知識を獲得するだけでなく、知識の活用能力や創造性、生涯を通じて学び続ける基礎的な能力を培うことが重視されつつあります。すなわち、一方的に知識・技能を教え込むのではなく、豊かな人間性や課題探求能力や問題解決能力等の育成に配慮した教育課程の充実が求められています。

## 2. 看護学部構想について

看護学部は、専門職業人に求められる知識と技術、人間性、自主性、自律性、創造性、柔軟性などの修得を重視しています。そして、本学の教育理念の下、生命の尊厳と人権を尊重し、人間を深く理解して行動する看護職者を育成することを目指しています。その人材育成とは、①身体的、心理的、社会的な側面から人間を全人的に理解し、幅広い教養と倫理観に基づく対人関係形成能力を備えた人間性豊かな人材、②科学的根拠に基づいた専門的知識・技術を用いて、いつでも、どこでも、誰にでも看護サービスを提供できる的確な実践力を有する人材、③幅広い分野・職種と連携し、創造的、主体的に学習することで地域社会に貢献できる人材の育成です。

その人材育成のために、看護学部のアドミッションポリシー（入学者受入れの方針）とカリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）を以下のように定めてあります。

### 1. アドミッションポリシー

#### 【大阪医科大学の教育理念】

高い知性と豊かな感性を兼ね備え、変化する社会に積極的に対応し得る能力と、生涯を通じて最新の医学医療的知識を摂取し、最高の医療技術を保持しようとする意欲を有し、最善の医療を目指す、創造性に富む人材を育成する教育です。

#### 【求める学生像】

看護学部が求める学生は、本学の教育理念を理解し、本学での学習を通して幅広い視野と柔軟な思考力及び創造性を育み、問題や課題を解決するため自ら考え行動する意欲を持ち、社会に貢献できる可能性のある人に広く門戸を開きます。

### 2. カリキュラムポリシー

#### 【看護学部の教育目的および目標】

生命の尊厳と人権の尊重を基本に、人々の健康問題の創造的な解決に向けて、柔軟な思考力や幅広い知識と視野をもち、保健・医療・福祉を統合した看護実践能力を有する人材を育成することを教育目的としています。その目的にそって以下のような教育目標を示しています。

## 看護学部設置にむけて

- 1) 豊かな人間性と倫理観を身につけた人間性を養う。
- 2) 健康の維持増進、高度医療から在宅医療まで幅広く、さまざまな人々を対象にさまざまな健康レベルに創造的に対応するための看護実践能力を養う。
- 3) 地域社会に貢献するために、保健・医療・福祉チームの他職種と連携・協働し、自ら看護の課題を発見し、解決できる能力を養う。

看護学部はそれらの目的・目標を実現するために、カリキュラムイメージ図に示すように、本学部独自のカリキュラムを組み立てています。

- ① 基礎科目と専門基礎科目は、「人間理解」、「社会理解」、「異文化理解」を3つの基軸として科目を配置しています。
- ② 専門科目は、「看護の基盤」、「生活支援」、「療養支援」、「地域支援」の4分野と、「統合」としての科目を配置しています。
- ③ 教育方法は、既存の知識の一方向的な伝達ではなく、講義や演習や実習を通して、討論を含む双方向型の授業を行い、主体性や創造性を重視した教育を展開します。
- ④ 総合実習や卒業演習（卒業論文）を通じて、論理的思考、表現力、倫理性を磨き、自発性や自律性を培うことができるように個別指導を行います。

### —— カリキュラムのイメージ ——

科 目		概 要	1年次	2年次	3年次	4年次
基礎科目	人間理解	人間の尊厳に基づいた広い視野をもった豊かな人間性を養うとともに人間を取り巻く社会を理解し人間を個人から社会まで理解できる柔軟な思考力を養う				
	社会理解					
	異文化理解					
専門基礎科目	人間理解	看護の対象となる人々やその人々の生活・健康をささえる社会の仕組みや環境を幅広く理解する。看護職者として医療における倫理的・道徳的判断ができる能力を養う				
	社会理解					
	異文化理解					
専門科目	看護の基盤	対象者の健康問題の解決に向けて、科学的根拠に基づいた援助ができるように基礎的看護実践能力を培う				
	生活支援	各領域において看護の理論と実践を系統的に学修し、看護実践に必要な基礎的能力を培う				
	療養支援					
	地域支援					
	統 合		自己の看護の課題を追求することによって最善の看護実践を創造できる能力を養う			
	助産課程(自由科目)	社会のニーズにこたえられる実践力にたけた助産師の能力を養う				

## 平成21年度 永年勤続表彰

日 時： 平成21年6月2日（火）10時～  
35年勤続表彰 13名  
20年勤続表彰 22名  
場 所： 総合研究棟12階 第2会議室

### 勤続35年

石川理津子（病院看護部・看護師）	竹内 淑恵（中央検査部・技師長補佐）
大塚 映子（病院看護部・准看護師）	永井 利昭（研究機構・担当技師長）
萩野 安宏（病理学・主任）	中村喜代美（病院医療相談部（医療連携室）・課長補佐）
小野 美鈴（病院医療相談部（相談課）・主幹）	松下 清美（病院看護部・看護事務員）
喜多 哲子（病院看護部・看護助手）	横山 幸子（病院看護部・看護師長）
下川 要（病理学・技師長補佐）	吉田 秀世（生理学・講師）
高木有己子（診療情報管理室・事務員）	

(50音順)



勤続35年表彰者

## 永年勤続表彰を受けて

病院看護部 看護師長 横山 幸子

この度、大学・病院の13名の方々と共に勤続35年の表彰を受けました。私と本学との出会いは、附属准看護師学校入学からで准看護師として内科病棟での勤務をしながら看護専門学校に通う勤労学生でした。多くの仲間とお互いを支え、励ましながら現在では知る人も少ない高槻市別所中の町にあった清泉寮で学生生活を楽しく過ごしました。専門学校卒業後も内科病棟の配属となり1年1年が経つ度に看護すること、後輩へ看護を伝える喜びを感じていました。それは、たくさんの患者様が私を看護師として成長させて下さいました。ある内科教授が「患者が教科書だよ」と回診の後に研修医や医局の先生方に指導されていたことを忘れません。臨床経験7年目より臨床指導者となり看護学生とともに看護する感

## 永年勤続表彰

動を涙しながら語る学生にもらい泣きする自分がありました。看護はめまぐるしく変わる時代を迎え変革し、看護の専門性が高まり社会が求める看護を考える中で、平成11年看護師長の職位をいただきました。看護管理は困難なことも多く悩みながらですが、本学で学んだこれまでの経験と常に指導、助言を下さる上司・先輩のもとでさらに自己研鑽に努めていきたいと思えます。最後になりましたがこれまで看護への意欲と情熱を下さった患者様とこの仕事を続けられる環境を応援してくれている家族に感謝します。

### 勤続20年

- |                           |                        |
|---------------------------|------------------------|
| 青山 典子 (病院看護部・看護師臨床指導者)    | 高田 仁美 (附属看護専門学校・専任教員)  |
| 井出登志江 (精神神経科・主事)          | 武隈 明美 (病院看護部・看護師)      |
| 圓堂美奈子 (医事課・主任)            | 田中恵美子 (健康科学クリニック・主任)   |
| 岡田 直起 (物流センター・課長代理)       | 田中 源重 (麻酔科学・准教授)       |
| 沖原 香 (病理学・主事)             | 田邊 由美 (臨床治験センター・看護師主任) |
| 北川 美佐 (法医学・主事)            | 永岡 保 (施設課 (電気室)・主事)    |
| 小林 豊英 (薬剤課・副主幹)           | 西村 敬子 (栄養課・調理師)        |
| 小原 多美 (病院看護部・看護補助)        | 古谷 榮助 (化学・生体分子学・教授)    |
| 近藤敬一郎 (キャリア形成支援センター・専門教授) | 堀江 典代 (中央検査部・臨床検査技師)   |
| 坂戸まさみ (病院看護部・看護補助)        | 宮内千加子 (病院看護部・看護補助)     |
| 澤村 律子 (保健管理室・助教)          |                        |
| 島本 史夫 (教育機構・准教授)          |                        |

(50音順)



勤続20年表彰者

## 永年勤続表彰を受けて

予防・社会医学講座法医学教室 北川 美佐

この度、勤続20年の表彰を受けました。

私は平成元年4月1日より大阪医科大学法医学教室の技術員として入職しました。その当時、法医学

教室は大学敷地内の端っこの方の解剖2号館という場所にありましたが、一年後に私が入職当時に建設中であった、総合研究棟に移転しました。真新しかった研究棟も来年で20年です。その間に、多くの新しい建物が建ち、教室の名称が変更になるなど様々な出来事がありました。

当教室は教室員の入れ替わりも少なく、時間がゆっくり過ぎていっているような気がしていましたが、振り返ると、やはり20年、私が入職した当時に残っているのは私を含め3名となりました。職務を全うされ定年退職される方、他大学に移られた方、別の道に歩まれた方、また、新たに法医学を志して来られる方、今思うと、少しずつですが、変化して今の教室があるのだと考え深く思います。

業務面でも多くの設備がめざましく充実し、便利になりました。それに伴い、要求される結果の精度や速度の向上、日々変化していく業務内容について行かなければならないなど、忙しい今日この頃です。

法医学という仕事上、人生の不幸を目の当たりにすることが多い仕事で、ひとの一生を考えさせられることや、憤りを感じることもあります。当教室が昔から研究をされていた血液遺伝学がこの20年で画期的に発展しました。多くの方がご存じのABO血液型などからDNA型へと移行し、DNA鑑定が確立されていくまただ中に私は在職しています。これまで長年にわたる教室の地道な研究の成果を社会に還元できる機会も幾度とあり、現在では、戦没者遺骨をご遺族へ返還するためのDNA鑑定を行っています。新聞などで、ご遺族が返還された遺骨を手に、涙ながらに喜んでくださっている記事を目にすると、全くゼロから出発した20年の重みをひしひしと感じます。私がこのような機会に巡り会えたのも、これまでの教室の業績や信頼の賜ですし、また、私のようなものを見捨てず指導して下さった方々のおかげだと感謝しています。

時代と共にめまぐるしくいろんなことが変化していくこの時代に、どんな形に変化していくかは分かりませんが、予防・社会医学講座 法医学教室として、社会貢献に尽力を尽くしたいと思います。そのためにも今後一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

\*\*\*\*\*

### 前野貴俊先生（眼科学・昭和62年卒）が東邦大学佐倉病院教授に就任

眼科学教室 教授 池田 恒彦

前野貴俊先生（本学昭和62年卒、眼科前講師、現在、関連病院である多根記念眼科病院副院長）が、4月1日付けで東邦大学佐倉病院眼科の教授に就任されました。前野先生は網膜硝子体手術の分野で日本を代表するスペシャリストであり、その実力が評価され、教室としてもたいへん喜ばしいことと思います。我々眼科の教室員が他学の教授に就任するのは初めてのことで、先日「たかつき京都ホテル」で前野先生の前途を祝って盛大に祝賀会を開催しました。写真はその時の集合写真です。前野教授の今後のさらなる活躍を期待したいと思います。



## 受賞等について 研究助成金等について

### 受賞等について

#### 鈴木金治記念医学研究奨励賞受賞

泌尿生殖・発達医学講座 泌尿器科学教室 勝岡 洋治 教授

平成21年4月16日より岡山市で開催された第97回日本泌尿器科学会総会（公文裕巳会長）の開会式会場において、財団法人鈴木泌尿器医学振興財団より鈴木金治記念医学研究奨励賞（略称：鈴木泌尿器医学賞）、日本泌尿器医学功労賞、鈴木泌尿器看護福祉賞（鈴木志げ子賞）の贈呈式が厳かに挙行されました。研究奨励賞は泌尿器医学に関して優れた研究成果をあげた国内国外の研究者に対して表彰しており、医学功労賞は永年にわたり泌尿器科医学界の指導者として多大の功績を上げ、また後進の育成に尽力したことを評価して、それぞれに賞状およびメダルと副賞が贈られます。本年度の研究奨励賞は、財団内選考委員会の厳正な審議後に日本泌尿器科学会理事長の推薦を経て勝岡教授が受賞されました。平成3年に本財団法人が設立されて以来、25人目の受賞です。



#### 2008 Best Reviewer Award for The Journal of Urology

(2008年度アメリカ泌尿器科学会雑誌「The Journal of Urology」：Best Reviewer賞) 受賞

泌尿器生殖・発達医学講座 泌尿器科学教室 水谷陽一 助教

2009年4月25日～30日にアメリカ合衆国のシカゴで開催されました第104回アメリカ泌尿器科学会（104th Annual Meeting of American Urological Association）において、Best Reviewer Award for The Journal of Urology in 2008（2008年度アメリカ泌尿器科学会雑誌「The Journal of Urology」：Best Reviewer賞）を受賞されました。多くのReviewerの中から、毎年数名が表彰されます。



### 研究助成金等について

■平成21年度（第46回）学術研究奨励金 自然科学部門 [財団法人三島海雲記念財団]

研究課題名	氏名（所属名・職名）	助成金額
母乳分泌における脂質濃度調節機構の解析 （乳腺組織における核内受容体群のクロストーク機構）	瀧谷 公隆（小児科学・講師（准））	100万円

○研究協力課から処理（申請・機関承認等）しました公募助成金他のうち、内定・採択を確認できたものを掲載しています。

研究協力課へ掲載依頼のため情報提供下さったものを含めています。



叙勲について

平成21年「春の叙勲」で、永年の教育研究の功勞に対し、吉田康久名誉教授（衛生学）、中井益代名誉教授（微生物学）、堺 俊明名誉教授（神経精神医学）が、瑞宝小綬章を受章されました。



吉田 康久 名誉教授

大阪高等医学専門学校卒業  
大阪医科大学講師（衛生学）  
大阪医科大学助教授（衛生学）  
大阪医科大学教授（衛生学・公衆衛生学）  
現在、大阪医科大学名誉教授  
在職中に、大阪医科大学中央研究室長、実験動物センター長、学生部長を務める。



中井 益代 名誉教授

大阪医科大学卒業  
大阪医科大学講師  
大阪医科大学助教授（微生物学）  
大阪医科大学教授（微生物学）  
現在、大阪医科大学名誉教授  
在職中に、大阪医科大学学生部長を務める。



堺 俊明 名誉教授

大阪医科大学卒業  
大阪医科大学講師（神経精神病学）  
大阪医科大学助教授（神経精神病学）  
大阪医科大学教授（神経精神医学）  
現在、大阪医科大学名誉教授  
在職中に、大阪医科大学附属病院副院長、附属看護専門学校長を務める。  
本学退職後は、藍野学院短期大学教授、同大学副学長、同大学学長を務め、現在、藍野学院短期大学名誉学長。

# 「大学教育充実のための戦略的大学連携支援事業」採択

## 平成21年度文部科学省 「大学教育充実のための戦略的大学連携支援事業」に採択されました

### 1. 取組名称「淀川リバーサイズメディカルサポートプログラム」

### 2. 代表校及び連携校、関係自治体・関係団体

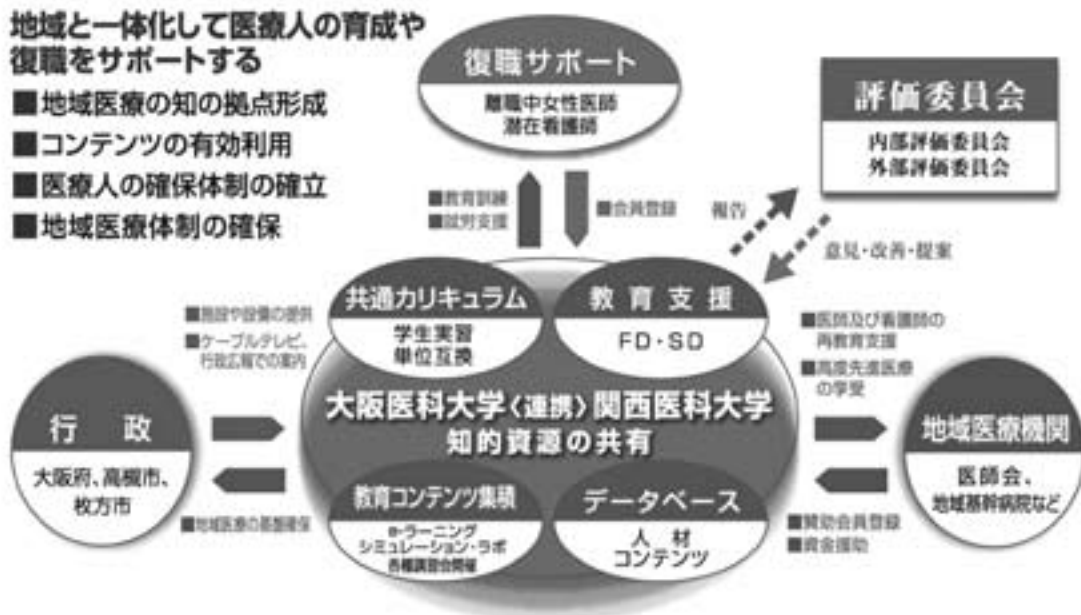
- 代表校名 : 大阪医科大学
- 連携校名 : 関西医科大学
- 関係自治体 : 大阪府、高槻市、枚方市
- 学術団体 : 社団法人 高槻市医師会  
社団法人 枚方市医師会

### 3. 概要

本取組は、淀川を挟み地域医療の中核を担っている大阪医科大学と関西医科大学が連携することで、両校が保有する基本的診療技能トレーニングの場及びFD等の教育資源を相互利用して学部学生の臨床教育の充実を図ることを第一義の目的とする。また、大阪府、高槻市、枚方市、各医師会といった自治体及び地域医療機関等と連携することにより、両校の教育資源を地域医療人のスキルアップのためのリカレント教育や離職した潜在医療人の復職トレーニングの場に利用することを第二の目的とし、さらに、医学生に多くの医療人との交流機会を与えることで、チーム医療や生涯学習の重要性を理解させ、プロフェッショナリズムを涵養させることを第三の目的とする。

本取組の多面的な訓練を受け、新たなスキルを修得した医学生及び地域医療人が、近い将来、医療機関や教育機関において国民の負託に応えるような活躍をし、地域医療を充実させることで地域貢献を目指すものである。

(取組のイメージ図)



# 「大学教育・学生支援推進事業」 学生支援推進プログラム採択

平成21年度文部科学省

## 「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラムに採択されました

今般、文部科学省より日本学生支援機構を通じて公募のありました標記事業に、本学が申請しておりました「優れた知識と技能を兼ね備えた良医を育てる医師力強化プログラム」が採択されました。

本事業は、各大学等における学士力の確保や教育力向上のための取組の中から、達成目標を明確にした効果が見込まれる取組を選定し、広く社会に情報提供するとともに、重点的な財政支援を行うことにより、我が国の高等教育の質保証の強化に資することを目的としています。

本学では、優れた知識と技能を兼ね備えた良医を育てるために「医師力」強化プログラムを構築し、国家試験対策の一環として外部機関連携による対策講座、模擬試験、個人指導及び共用試験等を実施・強化して、これまで以上に学生支援に取り組みます。

全学一丸となって取り組む所存でありますので全面的なご協力、ご支援をお願いします。

採択された本学のプログラムの概要は以下の通りです。

### 1. 取組名称「優れた知識と技能を兼ね備えた良医を育てる医師力強化プログラム」

### 2. 取組概要

我が国では、医師の絶対数不足、病院での必要医師数の不足、地域偏在による不足、診療科に属する医師の需給不均衡による不足という医師不足等が露呈し、また、医療技術の高度化、複雑化、社会からのニーズの高まりにより、卒業後・初期研修修了後に即戦力として活躍するために常に最先端の医療技術の修得が必要であり、自己研鑽が求められている。

本学では、「医学教育モデル・コア・カリキュラム」に基づき、これらの要求に対応すべく、実習・少人数単位のグループ討議に重点をおいたカリキュラムの構成や自学自習・問題基盤型学習システム等を導入し、良医の育成を目指している。

本プログラムでは、優れた知識と技能を兼ね備えた良医を育てるために「医師力」強化プログラムを構築する。具体的には、国家試験対策委員会を設置するとともに、国家試験対策の一環として外部機関連携による対策講座、模擬試験、個人指導及び共用試験等を実施して学生を支援する。

### 3. 取組の具体的内容

新卒・既卒の国家試験合格率100%を達成するため、OSCE・CBTの受験環境を整えるための必要な整備を行うとともに、国家試験対策専門の外部機関と連携し、テキスト講座受講や専門書講読を活用した模擬試験等を実施する。また、知識力と実習の修得度を把握し、模擬試験結果に対する徹底した分析と解説による個人指導を行う。

### 4. 取組の実施体制

学長を中心とした国家試験対策委員会を設置して、これまでに蓄積したデータの検証により外部機関との精度をあげた連携体制を構築し、各種対策（模擬試験等）の実施体制を整備する。また、教育センターを中心としてOSCEやCBTの実施環境整備を行い、学生の自学自習・フォロー体制を構築して実施する。

# 規程関係

### 規程制定

#### 次の規程が制定されました

■大阪医科大学附属病院	病院ホームページ運用要領	平成21年4月1日制定
■学校法人大阪医科大学	健康科学クリニック寄附講座規程	平成21年5月20日制定
■学校法人大阪医科大学	健康科学クリニック寄附講座委員会規程	平成21年5月20日制定
■大阪医科大学	大学安全対策委員会規程	平成21年6月1日制定
■大阪医科大学大学院	専任教員規程	平成21年6月1日制定
■大阪医科大学	看護学部開設調整委員会規程	平成21年7月1日制定

### 規程改正・廃止

#### 次の規程が改正・廃止されました

■学校法人大阪医科大学	入試実務委員会規程	平成21年4月1日改正
■大阪医科大学	広報・入試プロジェクト委員会規程	平成21年5月14日改正
■学校法人大阪医科大学	事務組織並びに事務分掌規程	平成21年6月1日改正
■学校法人大阪医科大学	田中国際交流基金規程	平成21年6月30日改正
■学校法人大阪医科大学	校賓規程	平成21年7月1日改正
■大阪医科大学	研究機構ハイテク・リサーチ・センター規則	平成21年3月31日廃止

※上記各規程等については、Online規程集（学内限定）にてご確認下さい。なお、都合上Online規程集の更新が遅れる場合があります。

## 平成20年度決算について

平成20年度決算は、本年5月30日開催の理事会において承認され、同日開催の評議員会において報告されました。

以下、資金収支を中心に概要を説明します。

### (1) 資金収支決算について

#### <資金収入>

##### (1) 学生生徒等納付金収入

前年度対比で4百万円の減収となりました。

##### (2) 手数料収入

前年度対比で31百万円の増収となりました。学部受験者数が前年度比218名増加したことと入学検定料を1万円値上げしたことで増収となりました。

##### (3) 寄付金収入

前年度対比で55百万円の増収となりました。特別寄付金は105百万円増加したものの、一般寄付金は51百万円減少したため結果的に55百万円の増加にとどまりました。

##### (4) 補助金収入

前年度対比で70百万円の増収となりました。経常費補助金が40百万円増加した他、新たに高度医療人養成事業補助金（本学への配分額）が38百万円交付されたためです。

##### (5) 資産運用収入

前年度対比で151百万円の大幅減収となりました。サブプライム問題による運用利回りの低下と運用財産の減少により、受取利息が147百万円減少したことによります。

##### (6) 資産売却収入

前年度対比で6億1千2百万円の減少となりました。19年度は運用している有価証券の満期償還が800百万円ありましたが、今年度は200百万円で600百万円減少しております。

##### (7) 事業収入

前年度対比で40百万円増収となっております。受託事業収入が32百万円増加し、LDセンター補助活動収入が6百万円増加しました。

##### (8) 医療収入

前年度対比では、8億7千2百万円の増収となりました。

入院収入については557百万円の増加となりましたが、平均在院日数の短縮、手術件数の増加等により単価が2,228円増加したためです。

外来収入については316百万円の増加となりました。患者数は前年比9,137人の減少となりましたが、外来化学療法センターの件数増、外来検査の件数増により単価が660円増加したためです。

##### (9) 雑収入

前年度対比で37百万円の増収となりました。退職金財団交付金収入が35百万円増加したことが原因となっております。

##### (10) 借入金収入

前年度対比で、1300百万円増加しました。運転資金の借入金の増によります。

##### (11) 前受金収入

前年度対比で1254百万円の増収となりました。学部在学生の学納金納付期限の変更によるものです。

##### (12) その他の収入

前期末未収入金収入計上方法の変更で前年度比▲400百万円となりました。

##### (13) 資金収入調整勘定

# 決 算

---

期末未収入金は、平成21年2月分及び3月分の診療報酬債権を本年度に換金しましたので前年度対比で大幅に減少しております。

## <資金支出>

### (1) 人件費支出

前年度対比で335百万円の支出増となりました。教員人件費が211百万円、職員人件費が182百万円の増加となっております。定期昇給による増加のほか主に研修医専攻医給与が161百万円、兼務職員（アルバイト）人件費が36百万円増加したこと等によります。

### (2) 教育研究経費支出

前年度対比で69百万円増加しました。医療収入の増加に伴い医療材料費支出が278百万円増加した反面、修繕費支出を204百万円圧縮しましたので、最終的には69百万円の増加にとどまりました。

### (3) 管理経費支出

前年度対比47百万円減少しました。賃借費支出が64百万円増加しましたが修繕費は21百万円、委託費が9百万円、雑費が89百万円減少しました。

### (4) 借入金等利息支出

借入金増に伴い利息支払支出が19百万円増加となりました。

### (5) 借入金等返済支出

学校債の満期償還が182百万円あったこと、及び運用資金の借換や繰上返済を行ったため345百万円増加しました。

### (6) 施設関係支出

前年度比314百万円減少しました。建物支出が減少したことによるものです。

### (7) 設備関係支出

前年度対比で150百万円の増加となりました。教育研究機器備品は前年度対比で68百万円減少しましたが、医療用機器備品が229百万円増加しております。

### (8) 資産運用支出

設備拡充引当資産650百万円を1,000百万円に積上げたことで248百万円増加しました。

### (9) その他の支出

前期末未払金支払支出が572百万円減少し、預り金支払支出は535百万円減少したことで前年度比1,013百万円の大幅減少となりました。

### (10) 資金支出調整勘定

期末未払金が565百万円減少しております。

### (11) 次年度繰越支払資金

診療報酬債権の売却と、学納金の納付期限の変更により前年度対比で3,768百万円の増加となりました。

## (2) 消費収支決算について

帰属収支差額は48百万円の黒字となりました。前年度と対比し809百万円の改善となっております。

## (3) 貸借対照表

資産から負債を控除した純資産は21,592百万円で、前年度から48百万円増加しました。固定比率は137.6%と100%を超えていますが、固定長期適合率は87.4%となり固定資産は安定した資金で調達できているといえます。

単位：百万円

## 平成20年度消費収支決算（前年度決算対比）

	勘定科目	20年度決算額	構成比率%	19年度決算額	構成比率%	増減
収 入	学生生徒等納付金収入	3,424	12.1	3,428	12.7	-4
	手数料収入	155	0.5	124	0.5	31
	寄付金収入	720	2.6	687	2.5	33
	補助金収入	1,531	5.4	1,461	5.4	70
	資産運用収入	251	0.9	402	1.5	-151
	資産売却収入	0	0.0	8	0.0	-8
	事業収入	281	1.0	241	0.9	40
	医療収入	21,121	74.8	20,249	75.0	872
	入院収入	15,532	55.0	14,975	55.5	557
	外来収入	5,479	19.4	5,163	19.1	316
	雑収入	735	2.6	387	1.4	348
	帰属収入 【A】	28,218	100.0	26,987	100.0	1,231
	基本金組入額（▲）	-1,333	-4.7	-1,795	-6.7	462
	消費収入の部合計 【B】	26,885	95.3	25,192	93.3	1,693

	勘定科目	20年度決算額	構成比率%	19年度決算額	構成比率%	増減
支 出	人件費	13,274	47.0	12,870	47.7	404
	教員人件費	4,292	15.2	4,082	15.1	210
	職員人件費	8,250	29.2	8,068	29.9	182
	退職金	0	0.0	1	0.0	-1
	退職給与引当金繰入	605	2.1	598	2.2	7
	教育研究経費	12,432	44.1	12,360	45.8	72
	医療材料費	6,999	24.8	6,723	24.9	276
	管理経費	2,327	8.2	2,275	8.4	52
	借入金等利息	105	0.4	86	0.3	19
	資産処分差額	14	0.0	228	0.8	-214
	徴収不能額	19	0.1	25	0.1	-6
	消費支出 【C】	28,171	99.8	27,844	103.2	327

帰属収支差額 【A - C】	47	0.2	-857	-3.2	904
消費収支差額 【B - C】	-1,286	-4.6	-2,652	-9.8	1,366

# 決 算

単位：百万円

平成20年度資金収支決算（前年度決算対比）						
	勘定科目	20年度決算額	構成比率%	19年度決算額	構成比率%	増減
収 入	学生生徒等納付金収入	3,424	8.4	3,428	9.4	-4
	手数料収入	155	0.4	124	0.3	31
	寄付金収入	711	1.7	656	1.8	55
	補助金収入	1,531	3.8	1,461	4.0	70
	資産運用収入	251	0.6	402	1.1	-151
	資産売却収入	201	0.5	813	2.2	-612
	事業収入	281	0.7	241	0.7	40
	医療収入	21,121	52.0	20,249	55.5	872
	入院収入	15,532	38.2	14,975	41.0	557
	外来収入	5,479	13.5	5,163	14.1	316
	雑収入	420	1.0	383	1.0	37
	借入金等収入	4,300	10.6	3,000	8.2	1,300
	前受金収入	1,923	4.7	669	1.8	1,254
	その他の収入	4,682	11.5	5,316	14.6	-634
	資金収入調整勘定	-1,652	-4.1	-4,717	-12.9	3,065
	前年度繰越支払資金	3,294	8.1	4,485	12.3	-1,191
	収入の部合計	40,642	100.0	36,510	100.0	4,132

	勘定科目	20年度決算額	構成比率%	19年度決算額	構成比率%	増減
支 出	人件費支出	13,212	32.5	12,877	35.3	335
	教員人件費	4,293	10.6	4,082	11.2	211
	職員人件費	8,250	20.3	8,068	22.1	182
	退職金	542	1.3	607	1.7	-65
	教育研究経費支出	10,917	26.9	10,848	29.7	69
	医療材料費	6,999	17.2	6,721	18.4	278
	管理経費支出	2,059	5.1	2,106	5.8	-47
	借入金等利息支出	105	0.3	86	0.2	19
	借入金等返済支出	4,377	10.8	4,032	11.0	345
	施設関係支出	323	0.8	637	1.7	-314
	設備関係支出	700	1.7	550	1.5	150
	資産運用支出	1,066	2.6	818	2.2	248
	その他の支出	2,700	6.6	3,713	10.2	-1,013
	資金支出調整勘定	-1,879	-4.6	-2,451	-6.7	572
	次年度繰越支払資金	7,062	17.4	3,294	9.0	3,768
	支出の部合計	40,642	100.0	36,510	100.0	4,132



## 平成20年度貸借対照表（平成21年3月31日現在）

勘定科目	本年度末	前年度末	増減
<b>固定資産</b>	29,720	30,477	-757
<b>有形固定資産</b>	24,858	25,485	-627
土地	4,516	4,516	0
建物	13,756	14,309	-553
構築物	244	252	-8
教育研究用機器備品	3,391	3,580	-189
その他の機器備品	189	197	-8
図書	2,755	2,622	133
車両	7	9	-2
建設仮勘定	0	0	0
<b>その他の固定資産</b>	4,862	4,992	-130
電話加入権	3	3	0
保証金	31	13	18
有価証券	1,311	1,513	-202
長期貸付金	522	431	91
退職給与引当特定預金	500	500	0
退職年金引当特定預金	445	482	-37
設備拡充資金引当資産	1,850	1,850	0
第3号基本金引当資産	200	200	0
<b>流動資産</b>	8,838	7,537	1,301
現金預金 (a)	7,062	3,294	3,768
未収入金 (b)	1,626	4,058	-2,432
有価証券 (c)	7	0	7
貯蔵品	63	64	-1
前払金	76	109	-33
仮払金	4	12	-8
<b>資産の部合計 【A】</b>	<b>38,558</b>	<b>38,014</b>	<b>544</b>

勘定科目	本年度末	前年度末	増減
<b>固定負債</b>	12,405	11,215	1,190
長期借入金	4,568	3,181	1,387
学校債	210	469	-259
退職給与引当金	7,627	7,565	62
<b>流動負債</b>	4,561	5,256	-695
短期借入金 (d)	344	1,626	-1,282
学校債	77	0	77
未払金 (e)	1,788	2,351	-563
前受金	1,923	669	1,254
預り金 (f)	429	610	-181
仮受金	0	0	0
<b>負債の部合計 【B】</b>	<b>16,966</b>	<b>16,471</b>	<b>495</b>

<b>純資産【A-B】</b>	<b>21,592</b>	<b>21,543</b>	<b>49</b>
<b>運転資金 (a) + (b) + (c) - (d) - (e) - (f)</b>	<b>6,134</b>	<b>2,765</b>	<b>3,369</b>

# 寄付金報告

---

## ■ 創立80周年記念事業寄付金の応募状況について

---

### <寄付金申込者>

平成21年4月4日から平成21年6月30日までの間の寄付金入金件数は、9件、金額は1,635,000円です。  
ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。  
なお、募集当初から平成21年6月30日までの寄付金入金件数は311件、金額は116,937,000円です。

(順不同・敬称略)

小松 眞悦 青木 宏明 匿名6件

## ■ 教育環境整備寄付金の応募状況について

---

### <寄付金申込者>

平成21年4月1日から平成21年6月30日までの間の寄付金入金件数は、12件、金額は21,300,000円です。  
ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。  
なお、募集当初から平成21年6月30日までの寄付金入金件数は38件、金額は81,800,000円です。

(順不同・敬称略)

医療法人微風会 土居 治代司 光田 周史 瀧口 透 山添 好宏 野木 渡 匿名5件

## ■ 大阪医科大学フレンズ会への入会状況について

---

### <入会者>

平成21年4月4日から平成21年7月21日までの間の入会者数は、1名です。  
ここに入会していただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。  
なお、募集当初から平成21年7月21日までの寄付金入金件数は313件、金額は7,865,000円です。

(敬称略)

竹中 洋

## ■ 創立80周年記念事業募金別館講堂「机募金」応募状況について

---

### <寄付金申込者>

平成21年4月4日から平成21年6月24日までの間の寄付金入金件数は、4件、金額は1,200,000円です。  
ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。  
なお、募集当初から平成21年6月24日までの寄付金入金件数は26件、金額は9,000,000円です。

(順不同・敬称略)

林 孝乾 藤原 祥子 四方 朋子 学部14期生(昭和40年卒) 三六会

## ■ 「別館」・「歴史資料館」維持事業に係る寄付金の応募状況について

---

募集当初から平成21年6月30日までの間の寄付金入金件数は5件、金額は177,000円です。

## ■ 新学部設置事業寄付金の応募状況について

---

### <寄付金申込者>

平成21年4月1日から平成21年6月30日までの間の寄付金入金件数は、15件、金額は6,025,000円です。  
ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。  
なお、募集当初から平成21年6月30日までの間の寄付金入金件数は67件、金額は14,016,000円です。

(順不同・敬称略)

有限会社すばる印刷 都市クリエイト株式会社 協栄ビル管理株式会社

藤田 一彦 嶋田 準一 白田 寛 匿名3件

### ※寄付についてのお問い合わせ

募金推進本部 TEL : 072-684-7243 FAX : 072-681-3723 E-mail : kikin@art.osaka-med.ac.jp

---

## ■タイ・マヒドン大学附属シリラート病院での短期臨床研修派遣について

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一

本学では国際交流の一環としてマヒドン大学附属シリラート病院との間で交流協定を締結し、学生を中心とした相互研修を積極的に行ってきましたが、平成21年3月9日から3月20日まで、本学5年生（現6年生）の金万淳一君および小寺ひとみさんを臨床実習生として派遣しました。以下にタイでの学生諸君の研修報告を紹介します。



シリラート病院の先生方と

## ■マヒドン大学附属シリラート病院での病院実習に参加して

6年生 金万 淳一

僕は今回3月7日～21日までの2週間、タイのマヒドン大学シリラート病院の外傷外科にて臨床実習に参加させて頂きました。当病院で実習した東京大学の学生の体験記を読んで以前より興味を持っていたので、今回本学が新たに協定校となり、交換留学生として短期留学する機会を頂けたのは非常に幸運でした。シリラート病院での貴重な体験をここに記したいと思います。

マヒドン大学シリラート病院は、タイで最も歴史ある医学校であり、チュラロンコン大学と一、二を争う人気校でもあります。またRoyal familyの訪れるRoyal hospitalでもあり、学生もそれを誇りに思っていると聞きました。実際、僕の滞在中にも国王や女王を含むRoyal familyが健康診断に訪れた日があり、厳重な警備が敷かれていました。

さて外傷外科に話を移すと、その名の通り外傷を負った患者さんに対して医療を提供する部門でした。



シリラート病院外傷外科にて（縫合中）

よってそのカバーする範囲は広く、整形と救急と形成がブレンドされた感じでした。日本には外傷のみを専門に扱う科は存在しないので、2週間の間にありとあらゆる外傷症例を診ることができ、非常に貴重な経験でした。中でも断トツに多かったのがバイク事故でした。これはバンコクの交通事情を如実に表しています。次に多かったのがanimal bite (dog, cat, snake, centipedeなど)です。タイでは道路の至る所に野良犬が寝そべっているためdog biteを見ない日はなく、狂犬病の発症予防の措置も常時行われていました。それ以外にも転倒、異物誤嚥、傷害事件、自殺未遂など豊富な症例を体験できました。医療というのは、その地域の人々の生活・文化に根付いたものだというのを改めて実感しました。

外傷外科ではresident, staff doctorの他に、医学部の5回生、6回生 (extern) が多数配置されており、外来患者の初期診療 (病歴聴取・身体診察・処置) は彼ら学生が中心となっていました。よって彼らのclinical skillは非常に高く、知識も臨床で役立つ実戦的なものでした。英語もみな堪能で、タイ語の分からない僕に通訳してくれました。オベ室や病棟での処置もあったのですが、やはりメインは外来だったので、僕は朝7時の病棟回診が終わると夜の12時までほとんどの時間を外来で過ごしました。residentやexternが創傷処置の基本知識を教えてくれ、多くの手技 (cleansing & brushing, suture, local anesthesia, dressingなど) も経験させてくれました。患者が来ない間は、学生と色んな話をして盛り上がり、今となってはいい思い出です。彼らと過ごすのが本当に楽しくて、最後の別れの時は泣きそうになりました。

今回初めてタイに行ったのですが、観光も満喫できました。宮殿やワット・ポーなどのバンコク市内の名所やアユタヤにも行くことができました。1月に本学に留学したChairatとNapatが終始面倒をみてくれたので、ここまで充実した滞在になったのだと思います。彼らと彼らのクラスメートには頭が上がりません。

恐らく今回が学生時代最後の留学となりますが、2回のハワイ大学留学を含め、計3回も留学の機会を頂けたことは非常に幸運なことでした。これらの体験を通して思うのは、留学というのは単に自身の知識・技術を磨くためのみならず、世界の中での日本の医療及び自分の能力を見つめ直すための重要な機会でもあったと感じました。タイの医学生は勉強中心のハードなスケジュールでありながらも、勉学を楽しみ、同じ志を持った同級生と素晴らしい人間関係を築いていました。ほぼ全員が寮住まいだからこそ可能なのかも知れませんが、やはり学生は勉強を中心に据えることで全てが充実してくるのだと痛感した思いです。賛否はあるかもしれませんが、事実上クラブ活動が中心となっている本学及び日本の医学部も、いい加減カリキュラムを改正すべきではないかというのが正直な気持ちです。僕はタイで出会った医学生の姿を思い出しながら、これからの勉強そして自分の将来像を描いていこうと思います。

最後に、今回もこんな素晴らしい機会を与えてくださった、河野教授、大槻教授、米田教授、中山センターの今尾さん、両親、お世話になったシリラート病院のドクターや学生達、患者さん、及びタイで出会えた全ての人達に深く感謝の意を申し上げます。そして何よりChairatとNapatに心から感謝したいです。



### ■マヒドン大学附属シリラート病院の研修を終えて

6年生 小寺 ひとみ

今年1月に、マヒドン大学から初めての交換留学生として2人の学生が本病院での臨床実習にやってきました。日本の文化にとっても興味を持っていて、親しみやすい素敵な2人でした。そして3月、自分がタイに旅立つ時がやってきました。到着するとそこは真夏の陽気でした。シリラート病院は想像以上に大きく、広大な土地に建物が立ち並び、一つのコミュニティーを形成していました。病院周辺も観光地の近くにあり、大変活気がありました。

実習では、内科病棟に加え、Emergency room(ER)、小児科、形成外科、外傷救急を回りました。昼は内科病棟で夕方からはER、空き時間などに他の病棟を見せてもらうといった流れでした。ERは午後6時～12時までの間が一番患者搬送の多い時間帯で、最大10人入れる救急室が満席になることもしばしばでした。その過酷な業務の中でも和気藹々とした雰囲気、一つ一つのケースについて留学生の私に説明して下さり、身体所見をとらせてもらうことができました。私の実習した重症患者のための内科病棟は、現地医学生の臨床実習で最も過酷な病棟といわれており、医者者の臨床能力もさることながら、ナースチームも毎年病棟ごとの評価で1位を受賞しているという徹底した仕事ぶりでした。医学生の1日は、朝6時から採血と血糖チェックに始まりLabのデータをカルテに写し、その後の回診、治療の手伝い、講義のあと夕方の回診となります。

驚愕だったのが、5年生が2人1組1日交代で当直を行っていたことです。更に、夜中過ぎから新しく入院した患者のAdmission reportを毎日2～5人分ほど手書きしていました。もちろん問診も身体所見も自分でとらなくてはなりません。Reportは週に一度、2時間ほどかけてProfessorがチェックしその後Discussionします。また、医学生が行う医学生外来というものがあり、問診→身体所見→カルテ記入のあと、教授と患者と3～4人の医学生が1つの机を囲んでDiscussionという日本では考えられないような奇妙な光景を見ることが出来ました。患者さんは教育も兼ねた病院であることを分かっており、医学生の教育のための医学生外来や、入院する必要がなくても医学生やDrの教育のため入院すること(Educational admissionと言っていた)に協力的です。「日本から来た学生ですが、身体診察させて下さい」というと患者の皆さんは快く引き受けて下さりました。

日本との大きな違いは、医学生は医学医療のみを学ぶものとして教育されているということに尽きると思います。病院の敷地内にある寮で6年間、大半の時間を病院の敷地中で生活をし、バイトも禁止され、クラブ活動も日本の様に力を入れていません。5、6年生は日本の研修医と同様、Drの下で治療方針を決定したり、腰椎穿刺、ドレーン留置などが出来ます。臨床能力や臨床知識は日本の研修医をはるかに凌ぐと思います。タイでは医学部を卒業したあと3年間、地方で働かなくてはなりません。地方は機材が限られているため、いかに少ない機材で患者を救うかという臨床技術が身につきます。そのため地方研修を終えたレジデントは臨床に長けており、大変優秀でした。

2週間は本当にあつという間でした。帰国後すぐにタイの情勢が不安定になり渡航禁止され、更に豚インフルエンザが流行ってきて、と、少しでも時期がずれていたら行けなかったのでは、と思い参加できて幸運でした。もっと勉強をして知識を深め、医者になってからでもまた機会があれば何回でも行きたいと思いました。毎日多くの医学生や先生方が、よりよい実習を受けられるよう尽力して下さい、観光で行った2年前よりもタイの文化を深く知り、タイの人の優しさに触れることができました。

最後になりましたが、海外で臨床研修をしたいという希望を叶えてくださった河野教授、出発までの準備をして下さった中山センターの皆様、先生方、本当に有難うございます。今回光栄にもマヒドン大学と大阪医科大学との姉妹提携の第1期生として派遣させていただきましたが、これからも大学間の素晴らしい関係が続いていくよう、努力していきたいと思っております。



一番右が小寺さん

## ■ハワイ大学春期短期研修派遣について

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一

本学では国際交流の一環としてハワイ大学医学部との間で交流協定を締結し、学生、教員の相互研修を積極的に行ってきましたが、一昨年、昨年に引き続き平成21年も3月16日から3月24日まで、本学4年生（現5年生）の石黒まやさん、松浦広昂君の2名をハワイ大学でのPBLワークショップに派遣しました。

以下に学生諸君のハワイでの研修報告を紹介します。



## ■医療面接の導入

5年生 松浦 広昂

ハワイ大学の研修ではPBLや医療面接を主に行いました。医療面接では日本のOSCEと違い問診だけでなく身体所見も取ります。さらに最後の締めでは現時点で考えられる疾患を2、3個あげどのような検査をするかを述べて退室です。OSCEよりも実際の診察に近く、要求されることもはるかに高度です。

しかし、ハワイの医療面接も診断が目的ではありません。日本のOSCEと同じく、コミュニケーションの向上も目的としているそうです。そしてむしろOSCEよりコミュニケーションにおいて学べる点が多かったのです。それはより実際の診察に近い状況を設定したからだと思います。鑑別診断を頭に挙げながら必要な質問・身体所見を行いメモもとる作業の中だからこそ起こる失敗から多くを学びました。どんな病気かなと考えあぐねるうちに背もたれにもたれかかってしまう。患者の言うことを必死にメモした結果、患者の目を全く見ていない。問診・身体所見で考えられる鑑別診断だからといって、何の配慮もせず患者にいきなり癌も考えられますと言ってしまいます。リアルな設定で得られる教訓はより具体的でかつ実践的です。



後列右から2人目が松浦さん

コミュニケーションの向上という点においては、交代で患者役をさせていただいたこともすごく勉強になりました。同じ答えを用意しているのに、聞かれ方によって自分の口から出てくる言葉がこうも自然と変わるものか…コミュニケーションの奥の深さ・難しさに改めて気づかされました。

さらに、医療面接はPBLにもいい影響を及ぼすのです。ハワイ大学研修に参加していた3年生の学生がこう言いました。「PBLで配られるシナリオを見てもイメージが湧きにくいですが、医療面接はよりリアルで分かりやすかった。医療面接をしたことで逆にPBLのシナリオもイメージしやすくなった。」

医療面接やPBLについて得られたことはまだまだあります。いずれにせよ医療面接

は本学の教育カリキュラムに必要だと思いました。今回の研修は医学教育に興味のある自分としては本当に実りあるものでした。このような貴重な機会を与えて下さったハワイ大学・大阪医科大学の先生方・スタッフ、一緒に参加した全国の学生に感謝いたします。ありがとうございました。

## ■ハワイ大研修に参加して

5年生 石黒 まや

今回私はハワイ大でのワークショップに参加させていただきました。今回のワークショップには大阪医科大学から2名が参加した他に、佐賀大学、慶應大学、北海道大学、旭川医科大学、金沢大学、東邦大学、浜松医科大学、岡山大学、高知大学、鹿児島大学からも参加者が集まり、合計22名で行われました。



左端に立っているのが石黒さん

ハワイ大学ではさまざまな学習形態が取り入れられています。その中にPBL (Problem Based Learning) があり、この方法は本学でも取り入れられています。

PBLではまず、学生は症例のプリ

ントを読み、そこから得られる限られた情報から診断を進めていきます。ハワイ大学では本学のPBLと比較して、PBLの最初の段階である「鑑別診断を挙げる」ことに重点が置かれています。診療科にとらわれず、ありとあらゆる仮説を挙げるのが、臨床の場面で役に立つと考えられているからです。そして、そこから「何を問診して聞くべきか」を考えていきます。「まず血液検査」「とりあえずCT」とすぐに臨床検査を行うのではなく、診察室で何を聞く必要があるのかを考えます。つまり、Gedankengang (考える筋道) を重視しています。本学のPBLと比較すると、より臨床現場を意識して、思考過程に重きを置いているとの印象を得ました。

今回のワークショップを通して、ハワイ大学での教育方法を学び、良いところを取り入れるとともに、日本での教育の優れている点を再発見し、両国の“いいとこどり”をすることで、我々に最も適した学習方法はなにかを考えていくことが、帰国してからの我々の課題だと思っています。

今回このような貴重なチャンスを与えていただきました先生方、経済的な援助をしていただきました仁泉会の方々、本当にありがとうございました。今回の我々の経験を大阪医大の今後の教育に還元していきたいと思います。



## ■中山国際医学医療交流センター、留学支援制度、成果報告

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一

本学では毎年多数の若手研究者が海外留学し、また海外からも留学生を受け入れています。センターでは、これら研究者の海外留学や本学受け入れをサポートする目的で、留学支援制度を設けています。これまで多くの若手研究者がこの制度により渡航費の一部支援を受けています。

今回一般・消化器外科の朝隈光弘先生が、フランス留学を終えて帰国されました。以下にその成果報告を紹介します。

## ■フランス留学記

一般・消化器外科 朝隈 光弘



IRCAD動物実験室にて仲間たちと

ある良く晴れた6月の日曜日の午後、僕の携帯電話が鳴りました。見ると谷川教授の表示が。

「朝隈君、来月からフランスのストラスブールに留学しないかね？」

「・・・はい。」

質問から答えまで推定2秒。自分では10分ほどに感じましたが。その時にはこの2秒が僕に何をもちたらずのか想像も出来ませんでした。

慌ただしく出国準備を終え2007年8月の末、関西空港から旅立ちました。思いがけずビジネスクラスにupgradeしてもらおうという幸運と、預けたスーツケース

がストラスブール空港で出てこないという不運に見舞われながら、人生初めてのヨーロッパに辿り着きました。その翌日、マンションの契約と銀行口座の開設のため2人のマダムと僕と妻がテーブルに付いたのですが、そのマダム達、一人は不動産屋でフランス語とドイツ語、もう一人は銀行の支店長でフランス語とアルザス語、かたやこちらは英語と日本語。パントマイムかコントのようなやりとりでなんとか契約するという離れ業？をやったのけました。なにしろ僕がその時知っていたフランス語は“ウィー”と“ボンジュール”くらいでしたから。ある程度の地位のある職業の人ですら全く、本当に全く、英語を話せないという洗礼を受け、僕たちの留学はスタートしました。

ストラスブール、ドイツとフランスの国境近くにあるこの人口27万の都市、そこはまさに異国の地でした。毎朝まるで生きて再会できたことを喜ぶかのように両頬にkissのまねをする国、ホームパーティの約束の時間には最低30分は遅れることが「約束」の国、パンとチーズとワインがやたらと美味しい国、オートマの車はほぼ存在せず、95%以上はミッション車の国、まるで楽しい会話を奪われるのはごめんとばかりに自動販売機を拒否する国、・・・ 僕たちの世代はハリウッド映画の影響か、外国語と言えは実質、英語一本槍教育のためか、はたまたアメリカのメジャースポーツの影響か、「世界」というと無意識に“America”または“English”を連想し、アメリカ、もしくはアメリカ人というフィルターを通してしか、その他の「世界」を見ていなかったのかもしれないという事に気付かされました。

留学先のIRCAD (Institut de Recherche contre les Cancers de l'Appareil Digestif) は今さら教室の皆様には説明の必要はないかもしれませんが、所長のJacques MARESCAUX教授を筆頭に、早くから低侵襲外科の教育の重要性を見抜き、当教室が日本語ver.の運営を行うWeBSurgを立ち上げ、各種トレーニングコースを運営し、なんといってもLINDBERG OPERATIONの名で知られるニューヨークからストラスブールの患者



仮装パーティにて：左から朝隈氏と奥様、左から3人目がボスのマレスコー教授



を手術するという、これこそ本当の離れ業を遂行され、純粋な外科学領域としては約50年振りに、かのNatureに掲載されたという実績を持つ施設です。(Marescaux J, et al. Transatlantic Robot-Assisted Telesurgery. Nature 2001;413:379-380.) マレスコー先生の慧眼とその統率力、洞察力、人望、名声、どれをとっても他に並ぶ物がいない人物で、徐々に分かってきたのですがストラスブルでは(いや、もしかするとフランスでは?) その名を知らない人はいないといっても全く過言ではありません。僕がフランスに着いてまだ一週間もしない頃、当時就任直後であったサルコジ大統領も視察に訪れられ、僕も握手させてもらいました。なんとも現実離れした瞬間でしたが、その施設に集まるfellow達も当然のことながら、各国の精鋭が集まった感があり大いに気後れしたものです。与えられたデスクの周囲を見回すと、イタリア人、アイルランド人、ギリシャ人、コスタリカ人、レバノン人、シンガポール人、スイス人・・・とまさに多国籍軍で、彼らとは留学中を通じて刺激し合い、教え合い、旅をし、笑い、時には喧嘩もあり、酒を飲み、その友情は一生の財産となりました。



豚での実験風景 IRCAD動物実験室にて

そもそもこの留学はNatural Orifice Transluminal Endoscopic Surgery (NOTES) と言う、内視鏡を口腔や膣、肛門から挿入し腹腔内に到達して、何らかの外科的手技を行うという、いささか素っ頓狂な、新しい発想の手術のプロジェクトに参加することが目的でした。ちょうどその頃NOTESは世界中で熱狂的に取り上げられ、腹腔鏡に続く次世代の低侵襲外科手術としての期待を一身に背負っている感がありました。僕たちfellowはプタを使って、胆嚢に始まり、胃、結腸、リンパ節、腎臓、副腎、膵臓と様々な臓器摘出のNOTESによるアプローチや、胃の閉鎖法等に挑戦し、最後咽頭から出て甲状腺をとった頃には、なんだか臨床応用のためという感覚は麻痺してしまう程、熱中しました。その成果をDDWやEAES、WCES等の国際学会に発表させて頂いたり、論文を書いたりという機会にも恵まれました。またヨーロッパ初のIRCADでのHuman transgastric cholecystectomyで、内視鏡を任されるという刺激的な経験もさせて頂きました。NOTESが最終的にどこに向かってどこに着地するのか、または着地しないのか、答えはまだ誰にも分かりませんが、何らかの形で教室にfeedback出来ればと思っております。

最後になりましたが、今回の留学に際し中山国際医学医療交流センターより援助いただきましたことをこの場を借りてお礼申し上げます。



## ■脳神経外科国際学会参加・West Virginia大学短期研修報告

中山国際医学医療交流センター運営委員 黒岩 敏彦

2009年3月22日から29日まで米国ソルトレイク市で開催されました3rd International Neurosurgical Winter Congressに、私を含めて教室から5人と当時4年生(現5年生)の中西君、佐々木君とともに参加しました。この学会は、第1回がトリノ大学のDucati教授、第2回がチューリッヒ大学のBertalanffy教授、今回の第3回がデューク大学・ウエストバージニア大学の福島孝徳教授、そして次回の会長が私であることもあり教室から多数参加いたしました。中西君と佐々木君は、福島教授が3年前に本学で講演された時から米国での短期研修を希望しており、今回やっと希望が叶えられたわけです。

学会に続いての研修は非常に感動的だったようで、このモチベーションを維持しながら大きく成長してほしいと思っています。

以下2人の学生の文章をご紹介します。



## ■理想の将来像の実現に向けて

5年生 中西 祐介

私は3月22日に日本を出発し3月29日まで脳神経外科の先生方、黒岩教授、梶本先生、川端先生、池田先生、啜生会脳神経外科病院の土居先生、同級生の佐々木君と共に福島孝徳先生がアメリカ、ユタ州で開催された3rd International Neurosurgical Winter Congressに参加させていただき、3月29日から4月3日まで福島先生が教授をされているウエストバージニア大学で病院見学、カダバーダイセクション、オペ見学などを体験させていただきました。

将来の選択肢の一つとして海外での臨床を考えている自分にとって、海外での生活や病院などが実際にどのようなものであるかを知ることが必要であると思い、今回の研修を受けさせて頂きました。

まず学会では様々な国からドクターが集まって議論をしているのを見学し、時には上下関係なく激しい討論をしているのを見て、医者の科学者としての一面を実感しました。一週間の学会でしたが他にも多くの貴重な体験をすることができました。

ウエストバージニア大学での見学はテレビ取材も入っており、オペ、大学の研究施設、病棟、ICUの見学、そして最も印象に残っているのが実際の手術器具を用いて行うカダバーダイセクションを体験させていただいた事でした。



ウエストバージニア大学研究室：  
カダバーダイセクション実習

また現地でリサーチフェローをされている日本人ドクターとご家族にも大変お世話になり、いろいろな現地での生活の實際を伺うことができました。

二週間の短い期間ではありましたが、非常に内容の濃い将来の方向性を決めるヒントをたくさん得ることのできた研修でした。このような貴重な機会を与えてくださった黒岩教授、脳外科の先生方、受け入れてくださった福島先生、リサーチフェローの先生方、本当にありがとうございました。



ウエストバージニア大学研究室：  
左から福島孝徳先生、中西さん、医仁会中村記念病院院長 野呂秀策先生

## ■3rd INWCとウエストバージニア大学病院見学に参加して

5年生 佐々木 裕亮



ウエストバージニア大学前にて：  
左から中西さん、福島孝徳先生、佐々木さん

まず始めに、今回3rd INWCとウエストバージニア大学での病院見学への参加にあたり色々面倒をみていただいた黒岩教授ありがとうございました。そして、学会にご一緒させていただきお世話になった、梶本先生、川端先生、池田先生、土居先生ありがとうございました。また、現地で大変お世話になった福島孝徳先生、野呂先生、酒井先生、野口先生ありがとうございました。

僕達は今回3月22日から29日にSalt Lake Cityで行われたThe 3rd International Neurosurgical Winter Congressとウエストバージニア大学の病院見学に行ってきました。この3rd INWCは脳神経外科医の福島孝徳先生が2年に1度開催されている学会で、世界各国の脳外科医が集まる学会です。午前と午後の2部制で各国の先生方はご自身が経験された症例や研究成果を発表されていました。また午前と午後のsessionの間は、会場となっているホテルの目の前に広がるゲレンデでスキーを楽しみます。もちろん僕達もアメリカの広大なゲレンデでスキーを楽しみました。僕にとっての学会の参加が今回の国際学会で初めてであったので非常に緊張しましたが、この学会に参加して、各国の先生方と話すことができ、また黒岩教授をはじめ脳外科の先生方に色々お話していただいたり、一緒にスキーをしたりと本当に日本では経験できない貴重な体験ができました。

次にウエストバージニア大学へ移動し2日間病院見学をしました。ウエストバージニア大学があるモーガントウンという街は非常にのどかで治安がよく学生が住みやすい印象を受けました。1日目は福島孝徳先生による大学案内と手術見学、2日目はカンファレンス見学、手術見学、カダバーダイセクションを行いました。カダバーダイセクションというのはご遺体を用いて脳神経外科で扱うマイクロサージェリーの研究を行うことで、僕たちも酒井先生のご指導のもとマイクロサージェリーを行わせていただきました。この経験は日本ではなかなかできないようで、本当に貴重な経験になりました。また夕食では福島孝徳先生、野呂先生、酒井先生とお食事を一緒にさせていただき、楽しい時間を過ごしました。

2週間弱という短い間でしたが、非常に内容の濃い時間が過ごすことができ、これからの自分の将来にとって素晴らしい経験となりました。もし在校生の方で脳神経外科に興味があれば、2年後の4th INWCは日本での開催みたいなのでぜひ参加してみることをお勧めします。



福島孝徳先生が開催された福島杯スキーレースにて：  
上段左から黒岩教授、池田直廉先生、嚙生会脳神経外科病院の土居温先生、愛知医科大学の高安正和教授  
下段左から佐々木さん、福島孝徳先生、中西さん

平成21年度 第I回 学位記授与式

日 時： 平成21年7月31日(金) 14時～  
 場 所： 別館1階 講堂  
 大学院医学研究科修了者(甲) …3名  
 論文提出者(乙) ……………3名



番 号	氏 名	論 文 題 名
甲第838号	沖 香奈子 【学位記名： 赤松 香奈子】	<b>Riluzole induces apoptotic cell death in human prostate cancer cells via endoplasmic reticulum stress</b> (Riluzoleのヒト前立腺癌細胞に対する小胞体ストレスによるアポトーシス誘導能)
甲第839号	嶋 洋明	<b>Radiographic measurements in patients with hallux valgus before and after proximal crescentic osteotomy</b> (外反母趾に対する近位中足骨骨切り術前後のX線計測)
甲第840号	高橋 猛	<b>Rejection of Intradermally Injected Syngeneic Tumor Cells from Mice by Specific Elimination of Tumor-associated Macrophages with Liposome-encapsulated Dichloromethylene Diphosphonate, followed by Induction of CD11b<sup>+</sup>/CCR3<sup>-</sup>/Gr-1<sup>-</sup> Cells Cytotoxic against the Tumor Cells</b> (腫瘍に関連したマクロファージをDMDPリポゾムによって特異的に除去し、腫瘍細胞に細胞傷害活性を持つCD11b <sup>+</sup> /CCR3 <sup>-</sup> /Gr-1 <sup>-</sup> 細胞を誘導することによる、マウス皮内に移植された同種同系腫瘍細胞の拒絶)
甲第841号	武田 義弘	<b>Clinical Significance of Calcification in Ascending Aorta as a Marker for the Requirement of Coronary Revascularization</b> (上行大動脈石灰化の冠動脈血行再建指標としての臨床的重要性)
甲第842号	塚田 敏	<b>High prevalence of chronic myocarditis in dilated cardiomyopathy referred for left ventriculoplasty: expression of tenascin C as a possible marker for inflammation</b> (左室形成術を受けた拡張型心筋症患者心筋に慢性心筋炎が高頻度に存在する：炎症マーカーの可能性としてのtenascin Cの発現)
甲第843号	足立 真由美 【学位記名： 仲 真由美】	<b>Phagocytosis mechanism of apoptotic granulosa cells regulated by milk-fat globule EGF factor 8</b> (Milk-fat globule EGF factor 8によるアポトーシス果粒層細胞貪食作用調節機構)

平成21年度 医学会春季学術講演会

日 時： 平成21年6月10日（水）13時30分～  
場 所： 臨床第1講堂

[特別講演]

『線維形成と分解の病理学—酵素活性の視覚化に向けて—』

大阪医科大学 病理学教室  
専門教授 岡田 仁克



[特別講演]

『光環境と皮膚—色素性乾皮症と向き合っ  
て—』

大阪医科大学 皮膚科学教室  
教授 森脇 真一



[研究奨励賞受賞講演]

『直腸カルチノイドの病理学的研究』

大阪医科大学 病理学教室  
芥川 寛



[研究奨励賞受賞講演]

『多発性硬化症のT細胞におけるオーファン核内受容体NR4A2は炎症性サイトカインの生産に関与している』

大阪医科大学 内科学I教室  
土居 芳充



学長室にて：

前列左から

森脇教授、竹中学長、  
岡田教授

後列左から

朝日教授、林教授

## 平成21年度 市民公開講座

### ■第2回

平成21年5月16日(土) 14時～ 臨床第1講堂

『身体にやさしい大腸がん治療を求めて』

講師：一般・消化器外科 講師 田中 慶太郎



『がんの痛みは怖くない』

講師：附属病院薬剤部 小林 豊英



☼『看護相談会』を開催致しました。

### ■第3回

平成21年6月20日(土) 14時～ 臨床第1講堂

『何でも食べたい! どだい無理な(話) 歯無し!?  
—インプラント治療について—』

講師：歯科口腔外科 教授 島原 政司



『骨粗しょう症のお薬と顎骨壊死の予防』

講師：附属病院薬剤部 鈴木 典子



☼“摂食嚥下障害看護について” 植上明美認定看護師の話と『看護相談会』を開催致しました。

## 平成21年度 市民公開講座開催予定

回	開催日	演 題	講 師	演 題	薬 剤 師
第4回	9月5日(土) (第1土曜日)	寝たきりにならないためのリハビリテーションのすすめ	リハビリテーション科 教授 佐浦 隆一	「転倒予防」 理学療法士 高山竜二	
第5回	11月7日(土) (第1土曜日)	新しい心肺蘇生を学びましょう ※実技有り	救急医療部 教授 森田 大 救急医療部医員	緊急時に使用する お薬について	山田 智之
第6回	12月19日(土)	リンパ浮腫って何?	形成外科 講師 中井 國博	リンパ浮腫治療に関 連するお薬について	曾根 登子
第7回	平成22年 1月16日(土)	「治験」ってなあに?～ 「治験に参加しません か?」と言われたら～	臨床治験センター センター長 林 哲也 センター一同	治験センター担当	

※各回において、お薬相談、看護相談を実施致します。

## 平成21年度 高槻市大学交流センター事業 『市民講座』開催予定

開 催 日	演 者	演 題
平成21年10月8日(木) 16:30～18:00	化学・生体分子学 教 授 古谷 榮助	『酒との付き合い方』
平成21年10月15日(木) 16:30～18:00	薬理学 教 授 朝日 通雄	『薬は体に何をします?』
平成21年10月22日(木) 16:30～18:00	法医学 教 授 鈴木 廣一	『法医学はどこまで真実を語れるか?』 —デジタル時代の法医解剖』

## PA会総会および教育懇談会開催

平成21年度PA会総会が4月18日（土）午後2時から本学新講義実習棟において、植木学長はじめ國澤理事長、大槻教育機構長、PA会会員63名の参加を頂き開催されました。

当日の議事は以下のとおりです。

- 1) 挨拶（PA会丸川会長、植木学長、國澤理事長）
- 2) 平成20年度PA会事業報告及び決算報告、会計監査について
- 3) 役員を選出について      4) 平成21年度の活動方針（案）について



挨拶の中で、PA会丸川会長からPA会設立の主旨と活動状況について、植木学長から本学の受験者数の現況と国家試験合格率について、國澤理事長からは外部からみた本学の評価、また健康科学クリニックの開設と看護学部設立についての説明がありました。その後、PA会丸川会長、PA会杉野次期会長のもと議事が進行されました。総会に引き続き、PA会主催の教育懇談会が開催され、大槻教育機構長による大学の近況報告の後、教育センター教員、学年担当教員による個別教育懇談会が行われました。

## 生前献体者文部科学大臣感謝状伝達式・ご遺骨返納法要



生前献体者に対する文部科学大臣からの感謝状伝達式が5月29日（金）、午後1時から第2会議室において挙行されました。また、これに引き続き、ご遺骨返納法要が午後2時から光松寺（本学菩提寺）において、ご遺族の方々をお迎えし、植木学長、大槻解剖学教授、解剖学教室教職員および学部学生の参列のもとに厳かに執り行われました。式典は光松寺霊群住職の読経に始まり、40位の御霊位と献体に深いご理解を頂いたご遺族に対して、大槻教授、学生代表が祭文を奉読し感謝の意を表しました。読経の中、代表焼香に続いて参列者全員が焼香を行った後、

植木学長から感謝状を贈呈し、学生からご遺族の手にご遺骨をお返ししました。

## 平成21年度 看護専門学校特別講演会開催



日 時：平成21年4月22日（水）14：40～16：10

場 所：看護専門学校講堂

演 題：「正しい食生活」

講 師：大塚製薬健康推進本部

顧問 佐藤 和子 先生（医師）

佐藤先生からのメッセージ：「食べ物が豊富にあり過ぎる現代。『いかに食べるか』ということをも身につけていないために、病気に悩んでいる人がたくさんいます。正しい食生活を習慣化して、健康で充実した体づくりをすることが、よい学習、よい仕事、よい人生につながって行きます。」



大塚製薬HP <http://www.otsuka.co.jp/>



### ナイチンゲール生誕祭

平成21年5月7日（水）

5月12日は看護の祖であるナイチンゲールの生誕記念日で看護の日の週間でもあり、本校は様々なイベントを実施しました。そのスタートとしてのナイチンゲール生誕祭は、試行錯誤を重ねながら生誕祭委員会を中心に企画運営し、今回で第19回を迎えました。ナイチンゲール像への献花、誓詞斉唱、聖灯拝受のあと、生誕祭委員がナイチンゲールの偉業とその生き方をパワーポイントでプレゼンテーションしました。学年ごとの代表者が看護に対する思いをテーマに発表し、一人ひとりが初心を新たにしました。その後、附属病院に入院中の患者さまを訪問させていただきました。1年生にとってはキャップこそないものの白衣を着て、本校の学生として患者様のベットサイドを訪れる初めての経験となりました。この日の体験を基にして、自己の看護を成長させる貴重な機会となりました。

終了後、入院中に訪問させていただいた患者さまから、心のコもったメッセージを頂き感激しています。ありがとうございました。



### 第4回 白友祭（学校祭）

平成21年5月9日（土）

心地よい五月晴れに恵まれた、今年で4回目を迎える白友会は、白友会委員会が先輩後輩の枠を超えて計画し、1年間をかけてこの日を迎えました。PR活動として今年も高槻ケーブルテレビの「街かどほっとらいん・週間街かどほっとらいん」に出演させていただき放映していただきました。

晴天の余りにか、午前中は出足が例年よりも遅れ心配しましたが、午後にかけてご家族連れの参加も多く、賑やかな1日になりました。健康相談・健康指導コーナー、模擬店、様々な体験コーナー…、今年が目玉は何といても「和太鼓演奏」。地域のお年寄りの参加もいただいて、迫力とチームワーク抜群の演奏に、日本人の心を回復することができました。

沢山の方と温かい心の交流を持つことができた1日となりました。ご参加いただいた方々に、心から御礼申し上げます。





## ■新人看護師臨床実践能力向上推進事業

看護部 教育担当師長 中山 サツキ

本院は厚労省の平成21年度新人看護師臨床実践能力向上推進事業において、新人助産師及び教育担当者研修の事業対象施設として認可されました。この事業は、新人助産師に対して「安心して安全な助産ケアを提供するための臨床実践能力を修得させるため、助産師として必要な姿勢及び態度並びに知識、技術について、十分な指導体制及び研修プログラムに基づく研修」を行うものです。また、教育担当者に対しては「卒後教育の考え方、方法論、教育研修指導の実践等を系統的に研修させ、看護師の資質向上及び医療安全の確保を図ること」が目的としてうたわれています。



さて、本院看護部では4月に新人看護師118名、新人助産師6名を迎えました。新人の看護師・助産師たちは日々の実践の中で試行錯誤しながら、患者さまの気持ちに寄り添える看護を目指して努力を続けています。また、その新人たちを育てる立場にある新人教育担当者たちも、自らが教育者としてどうあるべきか日々研鑽を積みながら指導に臨んでいます。このように看護部では、前掲の事業を通して新人看護師・助産師が初めての職場に円滑に適応でき、高度先進医療を担う大学病院の看護師・助産師として質の高い援助を実践することができるように効果的な研修プログラムの実施に取り組んでいます。



## ■主な行事日程(平成21年9月～平成21年11月)

9月1日(火)	看護専門学校授業開始 看護専門学校災害避難訓練	14日(水)	大講座主任教授会
2日(水)	教授会・大学院医学研究科委員会・診療科長会	15日(木)	高槻市大学交流センター事業市民講座 (於：高槻市総合市民交流センター)
4日(金)	看護専門学校交流会	16日(金)	看護専門学校戴帽式
5日(土)	平成21年度第4回市民公開講座	17日(土)	解剖慰霊祭
8日(火)	理事会	18日(日)	医学部オープンキャンパス(第3回)
9日(水)	大講座主任教授会	21日(水)	教授会・大学院医学研究科委員会
13日(日)	看護学部オープンキャンパス(第3回)	22日(木)	高槻市大学交流センター事業市民講座 (於：高槻市総合市民交流センター)
16日(水)	教授会・大学院医学研究科委員会	24日(土)	病院フェア
24日(木)	さつき会総会	28日(水)	病院運営会議
27日(日)	平成22年度医学部入試説明会&入試対策ゼミ(第1回・数学) 看護学部オープンキャンパス(第4回)	11月4日(水)	教授会・大学院医学研究科委員会・診療科長会
30日(水)	病院運営会議	7日(土)	平成21年度第5回市民公開講座
10月7日(水)	教授会・大学院医学研究科委員会・診療科長会	10日(火)	理事会
8日(木)	高槻市大学交流センター事業市民講座 (於：高槻市総合市民交流センター)	11日(水)	大講座主任教授会
13日(火)	理事会	14日(土)	院内コンサート
		18日(水)	教授会・大学院医学研究科委員会
		25日(水)	病院運営会議

# 主要会議報告

## ■主要会議とその主な議題(平成21年5月～7月)

### [理事会]

(平成21年5月19日)

#### —審議事項—

1. 大阪医科大学学則の一部改正について
2. 平成20年度決算について

#### —報告事項—

1. 担当理事運営会議報告
2. 学校法人大阪医科大学健康科学クリニック寄附講座規程(改正案)、同寄附講座委員会規程の制定及び同委員の選任について
3. 平成20年度資金運用について
4. 看護学部設置の進捗状況
5. 学事関係報告
6. 病院関係報告

(平成21年5月30日・その1)

#### —審議事項—

1. 平成20年度決算案承認について
2. 平成20年度事業報告承認について
3. 学長の任命について
4. 理事の選任について
5. 評議員の選任について
6. 学校法人大阪医科大学事務組織並びに事務分掌規程の一部改正について
7. 看護学部研究棟基本設計について

#### —報告事項—

1. 日本私立医科大学協会報告
2. 看護学部設置申請及び寄附行為変更について

(平成21年5月30日・その2)

#### —審議事項—

1. 評議員の選任について
2. 平成21年度補正予算について
3. 借入金について

#### —報告事項—

1. 健康科学クリニック関係

(平成21年6月9日)

#### —審議事項—

1. 常務理事の選任について
2. 長期借入金について
3. 看護学部研究室棟建築に係る入札業者について

#### —報告事項—

1. 社団法人日本私立大学連盟報告
2. 健康科学クリニックについて
3. 学事関係報告
4. 病院関係報告
5. 看護専門学校関係報告

(平成21年7月14日)

#### —審議事項—

1. 学校法人大阪医科大学校賓規程の一部改正について
2. 栗本功労教授からの寄付金の受入について

#### —報告事項—

1. 日本私立医科大学協会理事会報告
2. 担当理事運営会議報告
3. 学事関係報告
4. 病院関係報告
5. その他

### [評議員会]

(平成21年5月30日)

#### —審議事項—

1. 評議員の選任について
2. 平成21年度補正予算について
3. 借入金について

#### —報告事項—

1. 平成20年度決算報告について
2. 平成20年度事業報告について
3. 看護学部設置申請及び寄附行為変更について
4. その他

### [臨時評議員会]

(平成21年6月9日)

#### —審議事項—

1. 議長の選出について
2. 理事の選任について
3. 長期借入金について

#### —報告事項—

1. 国道拡幅に伴う「城北キャンパス用地一部買収」の件について

## [大講座主任教授会]

(平成21年6月10日)

### —審議事項—

1. 各大講座からの報告
2. 教授会と大講座主任教授会の在り方について

(平成21年7月22日)

### —審議事項—

1. 各大講座からの報告
2. 大講座主任教授の構成について
3. 教授会と大講座主任教授会の在り方について  
1) 大講座制に関する歴史
4. 医・歯・薬学分野における教員評価スタンダード・モデルについて

## [教授会]

(平成21年5月13日)

### —審議事項—

1. 人事に関する件
2. 大阪医科大学安全対策委員会規程(案)等について
3. 大阪医科大学学則の一部改正(案)について
4. 大阪医科大学大学院専任教員規程(案)について
5. 入試実務委員会委員の追加選出について
6. 平成21年度奨学生推薦一覧(案)について
7. 名誉教授称号授与に関する件

### —報告事項—

1. 理事会報告
2. 学長報告
3. 教育機構長報告
4. 教育センター長報告
5. その他

(平成21年5月27日)

### —審議事項—

1. 人事に関する件

### —報告事項—

1. 理事会報告
2. 学長報告
3. 広報・入試プロジェクト委員長報告
4. 倫理委員長報告
5. 教育センター長報告
6. その他

(平成21年6月3日)

### —審議事項—

1. 教育機構長の推薦について
2. 人事に関する件
3. 今後の教授会議事運営心得等について
4. 研究機構長の推薦について

### —報告事項—

1. 学長報告
2. 教育センター長報告
3. 中山国際医学医療交流センター長報告
4. 病院長報告
5. その他

(平成21年6月17日)

### —審議事項—

1. 教育センター長及び学生生活支援センター長の推薦について
2. 人事に関する件
3. 入試実務委員会委員長を選任について
4. 大阪医科大学入試実務委員会規程の一部改正(案)について
5. 看護学部看護学科設置に伴う医学部・看護学部共同委員会の立上げについて

### —報告事項—

1. 理事会報告
2. 学長報告
3. 広報・入試プロジェクト委員長報告
4. 病院長報告
5. 倫理委員長報告
6. 特定生物安全管理委員長報告
7. 学務部報告

(平成21年7月1日)

### —審議事項—

1. 人事に関する件
2. 看護学部開設調整委員会(仮称)について
3. 健康科学クリニック寄附講座の職位(教授等)の呼称について
4. 大阪医科大学大学院医学研究科における大綱改編について

### —報告事項—

1. 理事会報告
2. 学長報告
3. 中山国際医学医療交流センター長報告
4. 病院長報告

# 主要会議報告

## 5. 教育センター長報告

(平成21年7月15日)

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 感覚器機能形態医学講座耳鼻咽喉科学教室教授選考委員会委員の選出について
3. 看護学部開設調整委員会委員の推薦について
4. 健康科学クリニック寄附講座について

—報告事項—

1. 理事会報告
2. 学長報告
3. 教育機構長報告
4. 中山国際医学医療交流センター長報告
5. 病院長報告
6. 教育センター長報告
7. 倫理委員長報告

## [大学院医学研究科委員会]

(平成21年5月13日)

—審議事項—

1. 平成21年度ティーチング・アシスタントの任用について
2. 平成21年度リサーチ・アシスタントの任用について
3. 平成21年度第1回学位論文申請について
4. 平成21年度共同利用実験施設セミナーについて
5. 大学院生の専攻授業科目の変更について
6. 平成21年度大学院研究指導体制について
7. 関西空港検疫所における大阪医科大学大学院生への研究指導に関する協定書について

—報告事項—

1. 大阪薬科大学との教員相互交流及び特別研究学生交流に関する覚書について
2. 平成21年度和歌山県医師確保修学資金貸与者募集について

(平成21年5月27日)

—報告事項—

1. 大学における厳正な学位審査体制等の確立の徹底について(文部科学省通知)
2. 平成21年度第1回学位論文審査について
3. 平成21年度ティーチング・アシスタントの上申取り下げについて

## 4. 平成21年度学位論文提出のための語学試験について

(平成21年6月3日)

—審議事項—

1. 平成21年度ティーチング・アシスタントの追加上申について
2. 大学院委員会委員長推薦について

(平成21年6月17日)

—審議事項—

1. 大学院委員会委員の推薦について

(平成21年7月1日)

—審議事項—

1. 平成21年度学位論文提出のための語学試験について
2. 退学について
3. 平成21年度研究生新規申請者について

—報告事項—

1. 平今後の研究生手続について
2. 平成22年度大学院入学試験日程について
3. 平成21年度大学院整備重点化経費－研究科特別経費の公募について
4. 平成21年度第1回学位記授与式について

(平成21年7月15日)

—審議事項—

1. 平成21年度第1回学位論文審査結果に基づく可(合)否承認に関する件



### ■第21回 事例検討会（平成21年度 安全に係る職員研修 第1回目）

開催日：平成21年6月11日（木）・22日（月）・26日（金） 午後17：00～

※6月22日（月）・26日（金）はDVD上映会

テーマ・発表部署：①ドレーンの取り扱い事例について（消化器外科・54病棟）

②人工鼻の使用について（臨床工学室）

③誤配膳について（栄養部）

6月11日（木）午後5時より、臨床第一講堂・臨床第二講堂において、花房病院長の開会挨拶に続き、村尾医療安全対策室長の司会により、教職員を対象に事例検討会が開催されました。

各部署とも事例の紹介後、原因から対策まで分かりやすいスライドでの発表でした。

また、3事例とも、大きな事例にまで至らなかったものの、どの部署でも起こり得る事例であったため、アンケートでも再確認の大切さ、重要性を感じ、今後の業務に生かしたいとの意見が多数寄せられました。

最後に閉会の挨拶として米田医療安全推進部長より謝辞を述べられ、各部門リスクマネージャー及びその他医療従事者1,056名（初日349名、DVD上映会707名）が出席され、講演が盛会のもとに終了しました。

研修初日は会場へ足を運んでいただいたにも関わらず、大盛況で満席のため入場をお断りさせていただくこととなり、ご迷惑をおかけ致しました。今後は、DVD上映会の回数を増やし、出来るだけ多くの職員が受講できるように検討して参りますので、今後ともご出席いただきますようお願い致します。



※ 本院では、医療に係る安全管理のための職員研修は、全ての職員が年2回以上出席し、安全に関する意識の向上等を図るものとされています。毎回、多数の職員に参加していただき、安全に係る研修の参加意識も高まってきたように感じます。

## ■感染対策室より

### 新型インフルエンザ対策について

感染対策室 浮村 聡



メキシコ合衆国に端を発した新型インフルエンザ、swine-origin influenza A (H1N1) に罹患・発病した日本人が成田空港の検疫で複数名発見され、さらに5月16日以降、渡航歴のない関西居住の高校生から、多数の感染発病者が発見されました。当院も高槻市保健所の要請により発熱外来を開設し、新型インフルエンザ患者の対応にあたりました。また本学でも休校や海外出張自粛などの多くの対応措置がとられました。

病院として当初は屋外でのテントによる患者トリアージ、出入り口制限、面会制限とともに別棟の特別診察室と時間外外来を用いた発熱外来を開設する対応を行いました。しかし患者導線に問題があり、7号館1階全体を発熱外来とする体制としました。発熱外来開設一週間で160名を超える患者が発熱外来を受診し、当院でのPCRによる新型確定患者は8名でした。その後、感染拡大が休校措置により抑制されたため、発熱外来は歴史資料館3階の特設診察室に移りました。6月3日からは、歴史資料館の対応も中止し、7号館1階の発熱受付及び待合コーナーでの対応に規模を縮小、6月11日からは出入り口の制限も大幅に緩和されました。この間、直接診療をお願いした内科の先生方、さらにトリアージに参加頂いた、基礎系を含む先生方、事務職員の方々、そして何よりも看護部には多大なるご協力を頂きました。また、今回は病院のみならず大学の職員も含む多くの方々のご協力を頂きました。本当に有難うございました。また色々な面でご迷惑をおかけし、申し訳ありませんでした。

本年2月に厚生労働省が作成した「新型インフルエンザ対策ガイドライン」は高病原性鳥インフルエンザを想定したものであり、しかも水際撃退作戦を想定したガイドラインであったことから、今回の強毒性でない新型インフルエンザが実際に流行する状況下では現実的でない点が多くあり、現場も行政もそのギャップに悩みながらの対応となりました。

その後、幸いにも日本では大規模な流行とはなっていませんが、冬に向かう南半球では患者数が爆発的に増加しているのを受け、6月12日WHOは大流行宣言を行いました。現在は空港での水際作戦から、その舞台が免疫の低下した患者を抱える病院に移った状態と考えられます。今後も日本では海外からの持ち込み患者からの、限定的な二次感染を起こしつつ、秋を迎えることになると考えられます。現時点では感染者の多くは軽症ですが、感染者が増加すればアメリカと同様に日本でも重症化する人がみられるようになり、重症化例への医療体制は大きな課題であると考えられます。また今秋以降は1968年の香港かぜ以来の大流行が起こる可能性が極めて高いと、多くの専門家が考えています。それまでに新型に対するワクチンが間に合い、今回の新型にマッチしたガイドラインが定められることを願っています。

感染対策室では今回の対応への反省を踏まえ、決して油断することなく院内感染防止のための今後の対応を考えております。秋以降の流行時期には、出来るだけ職員の皆様の負担が小さく、院内感染のリスクを最小限にできるような対応法を検討していく所存ですので、その時はまたご協力のほど、よろしくごお願い申し上げます。



### 保健管理室からのお知らせ

#### ■ 医学部学生、看護学生、大学院学生の定期健康診断を終えて

4月～5月に医学部学生、看護学生、大学院生の平成21年度定期健康診断を実施しました。受検率は看護学生、医学部学生ともに100%となっていますが、医学部学生は健診期間中に受検しない学生がおり、未受検者には後日、何度も呼び出し勧奨しています。今後は看護学生のように全員が健診期間中に受検するよう勧奨していきたいと考えています。また大学院生についても学外で研修している者以外は全員が受検しました。

有所見者については学校医の判断に従い、再検あるいは受診の勧奨、生活指導を実施しています。今年度は医学部学生では貧血、尿酸値、看護学生では脂質値での所見が目立ち、食事などを中心に保健指導を実施しました。

#### ■ 特定業務従事者健診、特殊健診、長時間労働健診について

特定業務従事者健診、特殊健診、長時間労働健診は5月中旬に実施予定でしたが、新型インフルエンザ流行のため、6月22日(月)、25日(木)、29日(月)の3日間に延期となりました。急な延期で職員の皆様、関係部署にはご迷惑をおかけすることになりましたが、無事健診を終えることができました。

また健診項目の見直しなど今後の健診を検討するため、アンケート調査を実施しました。お忙しい中、ご協力をいただき有り難うございました。職員の皆様により良いサービスが提供できるよう、来年度に向けて検討していきます。

#### ■ インフルエンザB型、新型インフルエンザ流行について

4月中旬に医学部学生においてインフルエンザB型が流行し、クリニカルクラークシップ中の5年生を1週間休講措置としました。また4月末頃より新型インフルエンザが発生し、本学学生、職員の発症者は認めませんでした。大阪、神戸での感染者が確認され、感染予防のため海外渡航自粛、課外活動の禁止、1週間の休講措置をとっています。

保健管理室としては、学生や教職員の体調チェック、海外渡航者の体調管理、ポスターやHPでの注意喚起など行いました。しかし数年前より新型インフルエンザ発生とパンデミックの可能性が危惧されていたにもかかわらず、保健管理室の対応、行動指針を十分に準備しておらず、今回の国内発生により慌てて対応を検討するという状況でした。秋には「第二波の流行」も危惧されており、早急に保健管理室の対応、ワクチン接種、行動マニュアルの作成をしたいと考えています。

また特に医学部学生については、自宅待機中に学生同士で集まって遊ぶ、咳などの症状があるにもかかわらずマスク着用せずに臨床実習に参加する、自己判断でインフルエンザ治療薬を服用するなど感染症に対する認識の不十分さが目立ち、教育・啓発活動が今後の重要な課題となりました。

#### ■ 医学部1年生の感染症(麻疹、風疹、ムンプス、水痘)抗体検査証明書の提出について

本学では感染症対策として、医学部学生、看護学生、大学院生の1年生と入職者を対象に麻疹、風疹、ムンプス、水痘の抗体検査、QFT検査(結核)などを行っています。

医学部学生は入学後、直ちに早期体験実習があるため、入学時に麻疹、風疹、ムンプス、水痘の抗体検査結果提出をお願いしていますが、未だに提出していない学生が10名程います。昨年は全員の結果提出が終わったのが今年3月で、毎年、結果回収に何度も電話などで催促して1年間かかっています。中には、検査を受けていない、用紙を紛失したという学生もいます。

この結果提出は学生を感染症から守るだけでなく、患者様や他学生、教職員への感染源とならないようにするために重要な感染症対策の一環となっていますので、ご協力をお願いします。

# 歴史資料館関係 俳句

## ■歴史資料館からのお知らせ

### 【歴史資料館展示資料恵与者】

平成21年4月1日から平成21年6月30日までに1名の方（別表）よりご恵与賜りました。

本事業の趣旨をご理解いただきましたご厚意に対しましてここに改めて心よりお礼申し上げます。

（敬称略）

受領日	恵与者氏名	資料名	恵与者と本学の関係
H21.5.21	島本 史夫	昭和48年度入学宣誓式並びに新入生オリエンテーション関係書類一式、大阪医科大学受験票（複写）、その他6点	医学部 昭和54年卒



### ◆大阪医科大学俳句会（五・六・七月）

黄と白のワチカン 國旗五句祭

山崎隆司

だいた子のそつくりかへる水遊

同

新緑が風を洗ひて幻住庵

今井雄介

大比叡四明も若葉沸き出でぬ

同

冷房の効きすぎてる会話かな

中川一成

路線バス拾ふ客なき青田かな

同

桐の花蔵の窓開く遠目にも

吉田孝江

理科室のマツチ大箱走り梅雨

同

反抗期また屋根にゐて桐の花

飯塚久子

四世代暮して達者茄子の花

同

蜥蜴の子神の近くにあらはれぬ

美濃 眞

鬼薊鬼が通ひし山の道

同

月涼しフヂタの裸婦に猫のゐて

宮脇芳美

夏襟のビーズきらめく占師

同

### 投句のお誘い

一般の方も投句（何句でも）して下されば、当句会で会員の出句と同じように選句します。入選句は当欄に掲載します。

宛先は  
〒569-8686 高槻市大学町2-7  
大阪医科大学

俳句会

皆様の参加をお待ちしております。





## ● 「健康科学クリニック」 始動!! ●

平成20年3月より建設が開始されたJR高槻駅NKビルも平成21年5月には完成し、同月引渡しを受け、6月1日から大阪医科大学健康科学クリニックを開所しました。その後、当初の準備期間を終え、いよいよ6月22日(月)には、人間ドッグを中心とした健診事業を開始しました。ここに至るまでに、色々な山河を乗り越えて来ましたが、健康科学クリニックに関係したスタッフ一同の並々ならぬ熱意と努力、また内外関係各位の温かいご支援とご鞭撻により、無事出立の日を迎えることができました。



開業後、クリニックのスタッフは、その心得として『一、思いやりの心と笑顔でお迎えます。一、受診者の心と身体を癒す対応に努めます。一、未病医療を通し健康長寿を応援します。』をモットーに、仕事に勤しんでまいります。このモットーを実践することが、地域の皆様の健康増進に役立ち、ひいては「このクリニックに来て良かった、もう一度利用したい。」とさせていただけるような場所となるよう、スタッフ一同張り切っています。

また、受診結果でフォローが必要な方は、本院を始め広く地域の医療機関にも積極的に紹介して、地域の医院様と本クリニックおよび大学附属病院とが連携したネットワークを構築し、このクリニックの情報が共有できる体制を作りたいと考えています。

このクリニックの事業内容につきましては、従来から機会を見て、繰り返しご紹介申し上げているとおりです。健康科学クリニックでの業務は、WHO、わが国、高槻市など社会的なニーズも高く、また時代と地域が求めている施設と言っても過言ではありません。



スタッフ一同、この事業を成功裏に導くべく、誠心誠意取り組んでおりますが、本学の皆様方に於かれましても、温かいご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

理事長 國澤隆雄

## ● 第40回市民フェスタ2009 高槻まつりに参加しました ●



表紙絵：『蔓荔枝』（ツルレイシ／ニガウリ属）

沖縄の夏を代表する植物として、また食用としてゴーヤー（苦瓜）の名の方がよく知られている。80もの種類がある1年生のつる植物である。黄色の花を夏から秋につける。雌雄同株であり、花卉の形で雌雄の区別がつく。巻きげによって、他にからみつく。果皮は苦いのでニガウリの一名がある。この夏、日よけのために庭の軒下に植えた。見事な緑のカーテンとなり、黄色い花が咲き、そのあと今は緑色の表面いぼいぼの10cmほどの紡錘状の果実をつけている。

大阪医科大学 名誉教授 富士原 彰

### 個人情報の取扱について：

平成17年4月1日から個人情報保護法が施行されました。これに伴い総務部では、学報の発送にかかる個人情報につきましては、個人情報保護法を遵守し、適切な管理を行っております。なお、収集・管理する個人情報につきましては、発送の目的以外に使用することはありません。学報に関する個人情報についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

大阪医科大学 総合企画部 学報編集担当係 電話 072-683-1221代  
E-mail : gakuho@art.osaka-med.ac.jp

大阪医科大学学報 第81号

発行年月 平成21年8月

発行 学校法人 大阪医科大学

編集・発行 総合企画部

印刷 大日本印刷株式会社

大阪医科大学ホームページ

<http://www.osaka-med.ac.jp/>